

# 北海道立総合研究機構 北見農業試験場年報

令和 6 年度

令和 7 年 7 月

地方独立行政法人北海道立総合研究機構  
農業研究本部 北見農業試験場

# 目 次

## I 概況

|   |                  |   |
|---|------------------|---|
| 1 | 沿革               | 1 |
| 2 | 位置               | 1 |
| 3 | 土壌               | 1 |
| 4 | 土地面積および利用区分      | 1 |
| 5 | 機構               | 2 |
| 6 | 職員               | 2 |
| 7 | 建物               | 4 |
| 8 | 新たに設置した主要施設および備品 | 5 |
| 9 | 決算               | 6 |

## II 作況

|   |       |    |
|---|-------|----|
| 1 | 気象経過  | 7  |
| 2 | 当場の作況 | 10 |

## III 試験研究および地域支援活動の概要

|    |               |    |
|----|---------------|----|
| 1  | 研究部の概要        | 22 |
| 1) | 麦類に関する試験      | 22 |
| 2) | 畑作物に関する試験     | 22 |
| 3) | ばれいしょに関する試験   | 22 |
| 4) | 牧草・飼料作物に関する試験 | 23 |
| 5) | 栽培環境に関する試験    | 23 |
| 6) | 病害虫に関する試験     | 24 |
| 7) | 地域支援活動        | 24 |
| 2  | 技術普及室の活動      | 24 |

## IV 研究発表および普及事項

|    |           |    |
|----|-----------|----|
| 1  | 研究発表      |    |
| 1) | 研究論文      | 27 |
| 2) | 口頭発表      | 27 |
| 3) | 専門雑誌記事    | 28 |
| 4) | 著編書・資料    | 28 |
| 5) | 新聞記事      | 28 |
| 2  | 普及事項      |    |
| 1) | 普及奨励事項    | 29 |
| 2) | 普及推進事項    | 29 |
| 3) | 指導参考事項    | 29 |
| 4) | 研究参考事項    | 29 |
| 3  | 品種登録・特許申請 | 29 |

## **V 研究企画・場運営・広報活動**

|   |       |       |    |
|---|-------|-------|----|
| 1 | 諸会議   | ----- | 30 |
| 2 | 各種委員会 | ----- | 30 |
| 3 | 刊行印刷物 | ----- | 34 |
| 4 | 広報活動  | ----- | 34 |
| 5 | 見学受入れ | ----- | 35 |

## **VI 技術指導および研修**

|   |         |       |    |
|---|---------|-------|----|
| 1 | 研修生の受入れ | ----- | 36 |
| 2 | 講師派遣    | ----- | 36 |
| 3 | 職員研修    | ----- | 39 |
| 4 | 職場研修    | ----- | 41 |
| 5 | 国際交流    | ----- | 41 |

## **VII その他**

|   |                                   |       |    |
|---|-----------------------------------|-------|----|
| 1 | 技術体系化チーム                          | ----- | 42 |
| 2 | オホーツク地域農業支援会議プロジェクトチーム（技術普及室・研究部） | ----- | 42 |
| 3 | 表彰・受賞                             | ----- | 42 |
| 4 | 行事                                | ----- | 43 |
| 5 | 自己点検への対応                          | ----- | 44 |
| 6 | 建物配置図                             | ----- | 45 |
| 7 | 圃場配置図                             | ----- | 46 |



# I 概 況

## 1 沿 革

当場は、明治40年に北海道庁立地方農事試験場北見分場（地方費）として、常呂郡野付牛村（現北見市）に設置された。翌明治41年には、北海道庁立上川農事試験場北見分場となり、さらに明治43年には、第1期北海道拓殖計画の実施に伴って国費に移管され、北海道農事試験場北見支場と改称された。その後、昭和17年には、北海道農業試験場北見支場となり、同19年には組織改正により、北海道農業試験場稚内分場が同北見支場稚内分場と改称され、当場の所管となった。また、昭和22年には、農林省札幌農事改良実験所北見試験地が場内に置かれ、はっか育種を担当した。

昭和25年に、農業試験研究機関の統廃合が行われ、北海道立農業試験場北見支場が設置された。同時に、当場の所管であった稚内分場は廃止され、また、札幌農事改良実験所北見試験地のはっか育種業務も遠軽町に新設された北海道農業試験場所管の試験地に移された。同年から専門技術員が駐在するようになった。また、昭和29年には大麦育種指定試験地の設置が決まり、女満別町（道立農試原々種農場女満別分場跡地）に試験地を置いて大麦育種を実施した。昭和31～34年には、道立農業試験場整備拡充計画の一環として市街化した北見市から現在地へ移転拡充し、昭和33年には大麦育種指定試験地も現在地へ移した。しかし、大麦栽培面積の減少により、昭和36年には小麦育種指定試験に切り替えられた。

昭和39年には、チモシー、スミズブロムグラス育種のため牧草育種指定試験地が設置された。

昭和39年11月に、道立農業試験場の機構改革により、当支場は北海道立北見農業試験場と改称、1課7科となった。昭和43年には、技術普及部門強化のため専門技術員室が設置され、その後2～3の科名変更や係の統廃合などがあり、平成4年には、管理科および研究各科を主管する研究部長を設置するほか、畑作園芸科を再編し園芸科に、病虫害科を病虫科にそれぞれ変更した。平成8年3月には、機構改革により水稻試験地を閉所、水稻に関する試験は上川農試に引き継いだ。

平成10年4月に馬鈴しょの耐病性育種を強化する

ため、馬鈴しょ科（馬鈴しょ育種指定試験地）が根釧農試より移転した。平成12年4月には、「道立農業試験場新研究基本計画」に基づく地域対応強化のため、研究部を作物・生産の2部制とし、専技と技術体系化チームからなる技術普及部を新設した。また、園芸科と作物科を統合し畑作園芸科に、土壤肥料科を栽培環境科に変更した。平成18年4月には、小麦科を麦類科に改称した。また、専門技術員を廃止し、主任普及指導員、主査（地域支援）を設置、総務課会計係を廃止し、主査（会計）を設置した。平成19年に創立100周年を迎え、記念事業を行った。平成22年からは、22の道立試験研究機関を統合して創設した地方独立行政法人北海道立総合研究機構に移行、グループ制を導入した。

## 2 位 置

当場の住所は、常呂郡訓子府町字弥生52番地で、北見バス訓子府駅停留所から北西へ約4kmの所にある（北緯43° 45'、東経143° 43'、海拔196m）。また旧水稻試験地は、同町若葉町99番地にあり、訓子府駅停留所から西へ約1km（海拔136m）の所にある。

## 3 土 壌

庁舎周辺の土壌は、黒ボク土あるいは多湿黒ボク土に分類される。台地上の軽石流堆積物やその二次堆積物の上に火山灰が堆積したもので、表層に腐植を多く含み、下層は堅く、排水はやや不良である。旧水稻試験地の土壌は、褐色低地土に分類される。常呂川の河川堆積物からなり、下層土は礫の多い砂土で、排水は比較的良好である。

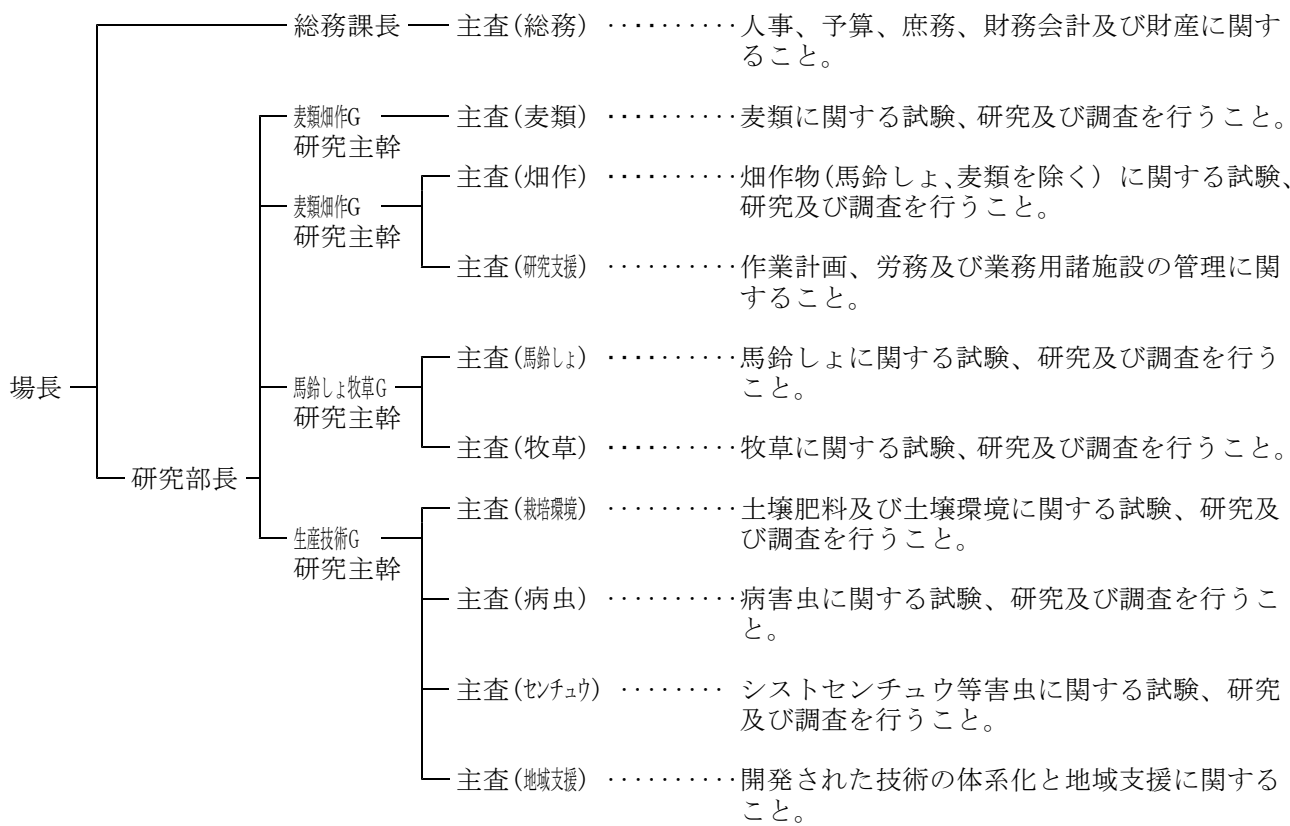
## 4 土地面積および利用区分

総面積1,557,688㎡

| 区 分           | 面 積 (㎡)      |
|---------------|--------------|
| 庁 舎 、 建 物 敷 地 | 118,564      |
| 公 宅 用 地       | 44,151 (道財産) |
| 道 路 、 用 排 水 路 | 42,383       |
| 山 林           | 300,400      |
| 試 験 ほ 場 (畑)   | 709,705      |
| 〃 (隔離ほ場)      | 73,260       |
| 原 野 、 そ の 他   | 269,225      |

注) 上記のうち54,985㎡は旧水稻試験地

# 5 機 構



(道農政部技術普及室)  
 上席普及指導員 — 主任普及指導員 — 主査(普及指導) …… 普及指導員の指導及び専門技術の調査研究に  
 関すること。

# 6 職 員

## (1) 職員の配置

令和7年3月31日現在

| グループ別<br>区 分 | 場 長 | 部 長 | 研 究<br>主 幹 | 麦 類 畑 作 G |     |     | 馬鈴しょ牧草G |     | 生 産 技 術 G |     |     | 総務課 | 合 計 | 技 術<br>普及室 |
|--------------|-----|-----|------------|-----------|-----|-----|---------|-----|-----------|-----|-----|-----|-----|------------|
|              |     |     |            | 麦 類       | 畑 作 | 管 理 | 馬鈴しょ    | 牧 草 | 栽 環       | 病 虫 | 支 援 |     |     |            |
| 研究職          | 1   | 1   | 4          | 6         | 2   |     | 4       | 3   | 4         | 4   | 1   |     | 30  |            |
| 行政職          |     |     |            |           |     | 4   |         |     |           |     |     | 5   | 9   | 3          |
| 計            | 1   | 1   | 4          | 6         | 2   | 4   | 4       | 3   | 4         | 4   | 1   | 5   | 39  | 3          |

## (2) 令和7年3月31日現在員

| 職 名        | 身 分   | 氏 名       | 職 名         | 身 分   | 氏 名       |
|------------|-------|-----------|-------------|-------|-----------|
| 場 長        | 法人職員  | 梶 山 努     | (馬鈴しょ牧草G)   |       |           |
| 総 務 課 長    | 北海道職員 | 古 屋 幸 生   | 研 究 主 幹     | 法人職員  | 宗 形 信 也   |
| 主 査 (総 務)  | "     | 壽 永 七 月 男 | 主 査 (馬鈴しょ)  | "     | 品 田 博 史   |
| 専 門 主 任    | "     | 井 上 顕 伸   | 研 究 主 任     | "     | 佐 藤 圭 文   |
| 主 任        | "     | 荒 川 雅 美   | 研 究 職 員     | "     | 和 崎 俊 主   |
| 技 師        | "     | 門 なつみ     | "           | "     | 石 川 圭 憲   |
|            |       |           | 主 査 (牧 草)   | "     | 飯 田 大 司   |
|            |       |           | 研 究 主 任     | "     | 高 畠 聡 史   |
|            |       |           | 研 究 職 員     | "     | 鈴 木 美 玲   |
| <研 究 部>    |       |           |             |       |           |
| 研 究 部 長    | 法人職員  | 平 井 剛     | (生産技術G)     | 法人職員  | 唐 星 児     |
| (麦類畑作G)    |       |           | 研 究 主 幹     |       | 板 垣 英 祐   |
| 研 究 主 幹    | 法人職員  | 大 西 志 全   | 主 査 (栽培環境)  | "     | 木 場 稔 信   |
| 研 究 主 幹    | "     | 鳥 越 昌 隆   | 研 究 主 査     | "     | 桑 原 萌 吾   |
| 主 査 (麦類)   | "     | 其 田 達 也   | 研 究 主 任     | "     | 三 和 優 奈   |
| 研 究 主 査    | "     | 木 内 均     | 研 究 職 員     | "     | 小 倉 玲 奈   |
| 研 究 主 任    | "     | 林 和 希     | 主 査 (病 虫)   | "     | 小 澤 徹 実   |
| 研 究 職 員    | "     | 佐 藤 優 美 介 | 主 査 (センチュウ) | "     | 森 万 菜 悠 一 |
| "          | "     | 村 山 真 也   | 研 究 主 任     | "     | 下 間 菜 悠 一 |
| "          | "     | 池 谷 川 浩 輔 | 研 究 主 任     | "     |           |
| 主任主査(畑 作)  | "     | 伊 藤 幸 雄   | 主任主査(地域支援)  | "     |           |
| 研 究 主 任    | "     | 中 出 秀 信   |             |       |           |
| 主 査 (研究支援) | "     | 横 川 愁 斗   | (道技術普及室)    | 北海道職員 | 中 村 浩     |
| 主 任        | "     | 柴 田 匠     | 上席普及指導員     | "     | 添 島 均     |
| 技 師        | "     |           | 主任普及指導員     | "     | 飯 田 麻 衣   |
| "          | "     |           | 主 査 (普及指導)  | "     |           |

## (3) 転入者および採用者

| 職 名        | 氏 名       | 発令年月日   | 備 考            |
|------------|-----------|---------|----------------|
| 研 究 部 長    | 平 井 剛     | 6. 4. 1 | 農業研究本部から       |
| 主 査 (総 務)  | 壽 永 七 月 男 | 6. 4. 1 | オホーツク総合振興局から   |
| 専 門 主 任    | 井 上 顕 伸   | 6. 4. 1 | 宗谷総合振興局から      |
| 主 任        | 荒 川 雅 美   | 6. 4. 1 | オホーツク総合振興局から   |
| 研 究 主 任    | 中 川 浩 輔   | 6. 4. 1 | 十勝農業試験場から      |
| 研 究 主 任    | 佐 藤 圭     | 6. 4. 1 | 中央農業試験場から      |
| 研 究 主 幹    | 唐 星 児     | 6. 4. 1 | 上川農業試験場から      |
| 研 究 職 員    | 下 間 悠 士   | 6. 4. 1 | 中央農業試験場から      |
| 上級普及指導員    | 中 村 浩     | 6. 4. 1 | 十勝農業改良普及センターから |
| 主 査 (普及指導) | 飯 田 麻 衣   | 6. 4. 1 | 網走農業改良普及センターから |
| 研 究 職 員    | 鈴 木 美 玲   | 6. 4. 1 | 新規採用           |

## (4) 転出者および退職者

| 職 名        | 氏 名     | 発令年月日    | 備 考           |
|------------|---------|----------|---------------|
| 場 長        | 梶 山 努   | 7. 3. 31 | 中央農業試験場へ      |
| 研 究 主 幹    | 鳥 越 昌 隆 | 7. 3. 31 | 十勝農業試験場へ      |
| 研 究 主 査    | 木 内 均   | 7. 3. 31 | 上川農業試験場へ      |
| 研 究 主 幹    | 宗 形 信 也 | 7. 3. 31 | 中央農業試験場へ      |
| 研 究 主 任    | 桑 原 萌 吾 | 7. 3. 31 | 中央農業試験場へ      |
| 主任主査(地域支援) | 田 中 一 生 | 7. 3. 31 | 退職            |
| 主任普及指導員    | 添 島 均   | 7. 3. 31 | 留萌農業改良普及センターへ |

## 7 建 物

| 資産名称         | 建築年月   | 構造名         | 延面積(㎡)   | 備 考         |
|--------------|--------|-------------|----------|-------------|
| 庁舎           | S33. 9 | ブロック造       | 1,495.37 |             |
| てん菜分析室       | S34.10 | 木造          | 99.09    |             |
| 根菜貯蔵庫        | S35.12 | 鉄筋コンクリート造   | 30.60    |             |
| 車両庫          | S45. 7 | 鉄骨造         | 140.66   |             |
| 第2号ガス貯蔵庫     | S46. 6 | ブロック造       | 3.53     |             |
| 豆類D型ハウス      | S53. 3 | 鉄骨造         | 233.28   |             |
| 園芸資材庫        | S54. 4 | 鉄骨造         | 64.80    |             |
| 緑体春化施設       | S56.10 | 鉄骨造         | 232.00   |             |
| 玉ねぎ貯蔵庫       | S57. 9 | ブロック造       | 127.00   |             |
| 昆虫飼育ガラス・温室   | S57.10 | 鉄骨造         | 25.92    |             |
| 管理科事務所       | S58.11 | 木造          | 172.53   | 現契約職員詰所     |
| 参観人便所        | S59. 9 | コンクリートブロック造 | 14.24    |             |
| ガラス・網室       | S59.12 | 鉄骨造         | 116.91   |             |
| 小農具庫及び農薬庫    | S61. 1 | ブロック造       | 136.08   |             |
| 種子貯蔵庫        | S61. 9 | ブロック造       | 59.40    |             |
| 園芸調査室兼温室     | S63.10 | コンクリートブロック造 | 498.96   |             |
| 農機具格納庫       | H 1.10 | コンクリートブロック造 | 728.50   |             |
| 牧草調査室        | H 1.11 | 木造          | 243.00   |             |
| 小麦生育温室       | H 2.10 | コンクリートブロック造 | 197.84   |             |
| 小麦調査室及び病虫調査室 | H 2.12 | 木造          | 245.52   |             |
| 土壌肥料調査室      | H 3.12 | 木造          | 204.00   |             |
| 普通車庫         | H 4. 9 | 鉄骨造         | 231.00   |             |
| トラクター車庫      | H 5. 2 | 鉄骨造         | 262.50   |             |
| 作物調査室        | H 5. 9 | 木造          | 200.00   |             |
| 共同作業室        | H 5.12 | 鉄骨造         | 708.75   |             |
| 病虫温室         | H 7.12 | 鉄骨造         | 314.64   |             |
| 牧草温室         | H 8.12 | 鉄骨造         | 315.00   |             |
| 農具庫（馬鈴しょ）    | H10. 3 | 鉄骨造         | 199.68   |             |
| 馬鈴しょ育種施設     | H10. 3 | 鉄骨造         | 676.20   | (実験室、温室、網室) |
| 馬鈴しょ育種施設     | H10.10 | 鉄骨造         | 346.50   | (調査室、浴光催芽室) |
| 馬鈴しょ育種施設     | H10.10 | 鉄筋コンクリート造   | 204.00   | (貯蔵庫)       |
| 赤カビ検定用採種ハウス1 | H11.11 | 鉄骨造         | 98.00    |             |
| 赤カビ検定用採種ハウス2 | H11.11 | 鉄骨造         | 98.00    |             |
| 作物温室         | H11.12 | 鉄骨造         | 305.75   |             |
| てん菜育苗施設      | H13.11 | 鉄骨造         | 216.00   |             |
| 農業資材庫        | H15. 1 | 鉄骨造         | 272.16   |             |
| 貨物車両庫        | H16.12 | 鉄骨造         | 273.60   |             |
| 資料保管庫        | H27. 3 | 木造          | 141.60   |             |
| 合 計          |        |             | 9,932.61 |             |

## 8 新たに設置した主要施設および備品

### (1) 施 設

該当なし

### (2) 備 品

| 名 称                                         | 形 式                                                         | 金 額 (円)    | 配 置   |
|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|------------|-------|
| ドローン                                        | D J I Mavic 3M                                              | 674,300    | 麦類畑作G |
| ライトステップ                                     | 長谷川工業株式会社 DA-180                                            | 113,520    | 総務課   |
| トラクター                                       | ヤンマー YT4104R                                                | 13,090,000 | 麦類畑作G |
| ノートパソコン (2台)                                | D e l l Inspiron 15                                         | 367,400    | 総務課   |
| デスクトップパソコン (2台)                             | D e l l Inspiron                                            | 352,000    | 総務課   |
| デスクトップパソコン (2台)                             | D e l l スモールデスクトップ <sup>°</sup><br>Inspiron                 | 352,000    | 総務課   |
| L4カルチ (5条)                                  | キューホー L4C-0037                                              | 497,970    | 麦類畑作G |
| エンジン式小型動噴                                   | 株式会社工進 MS-ERH50T                                            | 146,668    | 生産技術G |
| フォーリングナンバー                                  | F O S S アルファテックFNO                                          | 2,420,000  | 麦類畑作G |
| 測定装置                                        |                                                             |            |       |
| 簡易型貫入式土壌硬度計                                 | 大起理化学工業株式会社 DIK-5590                                        | 211,200    | 生産技術G |
| 小麦生育温室 <sup>°</sup> ロースキャビ <sup>°</sup> ネット | 2段式照明付栽培<br>棚、自動給水盤 <sup>°</sup> タンク<br>ポン <sup>°</sup> セット | 3,362,700  | 麦類畑作G |
| とうみ                                         | (有) 藤森鉄工場 T-30                                              | 440,000    | 麦類畑作G |
| 両袖デスク (1台)                                  | ウチダ 5-116-1160                                              | 107,800    | 生産技術G |
| 両袖デスク (4台)                                  | コクヨ D700×W1400×H720                                         | 440,000    | 麦類畑作G |
| 合 計                                         |                                                             | 22,575,558 |       |

## 9 決 算（支出額）

（単位：円）

| 科 目           | 予 算 額       | 支 出 済 額     | 残 額     | 備 考 |
|---------------|-------------|-------------|---------|-----|
| 戦 略 研 究 費     | 0           | 0           | 0       |     |
| 重 点 研 究 費     | 532,215     | 532,215     | 0       |     |
| 職 員 研 究 奨 励 費 | 0           | 0           | 0       |     |
| 経 常 研 究 費     | 21,336,000  | 21,182,451  | 153,549 |     |
| 依 頼 試 験 費     | 0           | 0           | 0       |     |
| 技 術 普 及 指 導 費 | 763,260     | 752,955     | 10,305  |     |
| 外部資金等確保対策費    | 26,000      | 25,816      | 184     |     |
| 研究用備品整備費      | 13,090,000  | 13,090,000  | 0       |     |
| 維持管理経費（研究）    | 725,000     | 725,000     | 0       |     |
| 研究用備品整備費（積立金） | 0           | 0           | 0       |     |
| 維持管理経費（一般）    | 30,414,000  | 30,379,487  | 34,513  |     |
| 研究関連維持管理経費    | 1,096,000   | 1,096,000   | 0       |     |
| 知 的 財 産 経 費   | 0           | 0           | 0       |     |
| 運 営 経 費       | 39,187,390  | 38,838,895  | 348,495 |     |
| 共 同 研 究 費     | 7,150,000   | 7,150,000   | 0       |     |
| 国庫受託研究費       | 331,000     | 331,000     | 0       |     |
| 道 受 託 研 究 費   | 5,128,000   | 5,126,793   | 1,207   |     |
| その他受託研究費      | 70,195,000  | 70,178,788  | 16,212  |     |
| そ の 他 補 助 金   | 24,365,000  | 24,365,000  | 0       |     |
| 維持管理経費（目的積立金） | 0           | 0           | 0       |     |
| 施設整備費補助金      | 12,097,000  | 12,095,600  | 1,400   |     |
| 施設整備費（繰越積立金）  | 0           | 0           | 0       |     |
| 科学研究費補助金      | 904,000     | 904,000     | 0       |     |
| 合 計           | 227,339,865 | 226,774,000 | 565,865 |     |

※ 人件費（研究職員費・派遣職員費・準職員費）を除く。

## Ⅱ 作

## 況

### 1. 気象経過

#### (1) 融雪期以降の経過

**4月：**平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬が極めて高く、下旬がやや高かった。月平均気温は8.2℃で平年より極めて高かった(+2.9℃)。降水量は上旬が平年並、中旬が少なく、下旬がやや少なかった。月合計は30.5mmで平年よりやや少なかった(-18.5mm)。日照時間は上旬がやや多く、中旬がやや多く、下旬がやや少ない。月合計は205.3時間で平年より平年並であった(+8.9時間)。

**5月：**平均気温は上旬が平年より低く、中旬が極めて高く、下旬が極めて低かった。月平均気温は11.4℃で平年よりやや低かった(-0.6℃)。降水量は上旬が平年並、中旬がやや多く、下旬が多かった。月合計は70.5mmで平年よりやや多かった(+14.2mm)。日照時間は上旬が平年並、中旬が平年並、下旬が少ない。月合計は182.5時間で平年より平年並であった(-12.4時間)。

**6月：**平均気温は上旬が平年より平年並、中旬が極めて高く、下旬がやや高かった。月平均気温は16.2℃で平年よりやや高かった(+1℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が少なく、下旬が平年並であった。月合計は43.5mmで平年より少なかった(-37mm)。日照時間は上旬がやや多く、中旬が平年並、下旬が平年並であった。月合計は184.1時間で平年より平年並であった(+26時間)。

**7月：**平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬が高く、下旬が平年並であった。月平均気温は21.8℃で平年より高かった(+1.8℃)。降水量は上旬が少なく、中旬が平年並、下旬が極めて多かった。月合計は110mmで平年より平年並であった(+14.9mm)。日照時間は上旬がやや多く、中旬がやや多く、下旬が少ない。月合計は181.5時間で平年より平年並であった(+4.7時間)。

**8月：**平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬が高く、下旬が極めて高かった。月平均気温は21.9℃で平年より高かった(+2.1℃)。降水量は上旬が極めて多く、中旬が少なく、下旬が平年並であった。月合計は220.5mmで平年よりやや多かった(+44.6mm)。日照時間は上旬が平年並、中旬が

やや多く、下旬が平年並であった。月合計は150.7時間で平年より平年並であった(+9.1時間)。

**9月：**平均気温は上旬が平年より高く、中旬がやや高く、下旬が平年並であった。月平均気温は16.6℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降水量は上旬が少なく、中旬がやや少なく、下旬がやや多かった。月合計は66.5mmで平年よりやや少なかった(-33.1mm)。日照時間は上旬が多い、中旬が平年並、下旬が平年並であった。月合計は190.9時間で平年より平年並であった(+31.2時間)。

**10月：**平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬が高く、下旬が極めて高かった。月平均気温は10.4℃で平年より高かった(+1.8℃)。降水量は上旬が平年並、中旬が多く、下旬が平年並であった。月合計は88.5mmで平年より平年並であった(+14.3mm)。日照時間は上旬がやや少なく、中旬がやや多く、下旬が平年並であった。月合計は168.4時間で平年より平年並であった(-0.1時間)。

**11月：**平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬がやや高かった。月平均気温(下旬を除く)は3.1℃で平年並みであった(-0.2℃)。降水量は上旬、中旬とも少なかった。月合計は2mmで平年より少なかった(-35.8mm)。日照時間は上旬、中旬とも平年並であった。月合計は83.5時間で平年並であった(-7.3時間)。

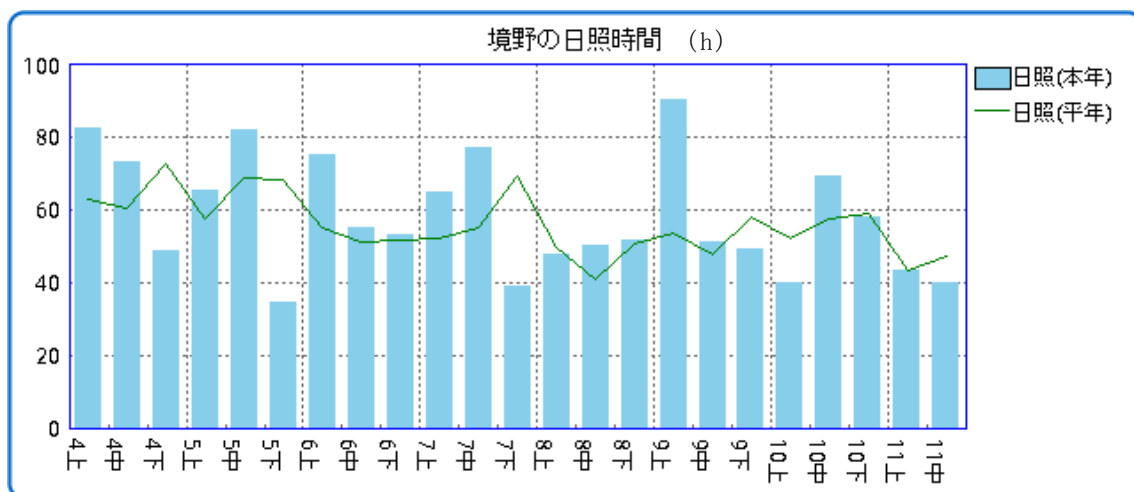
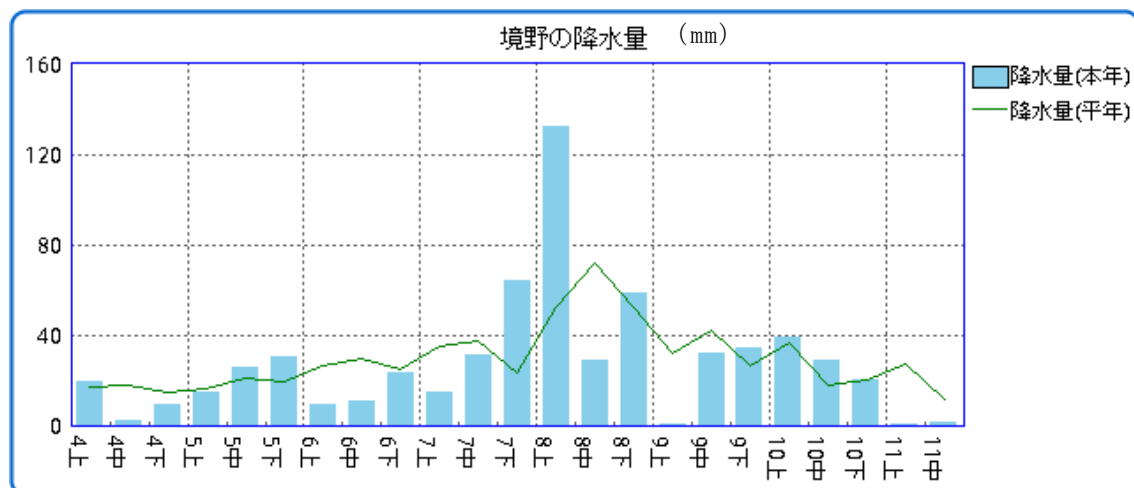
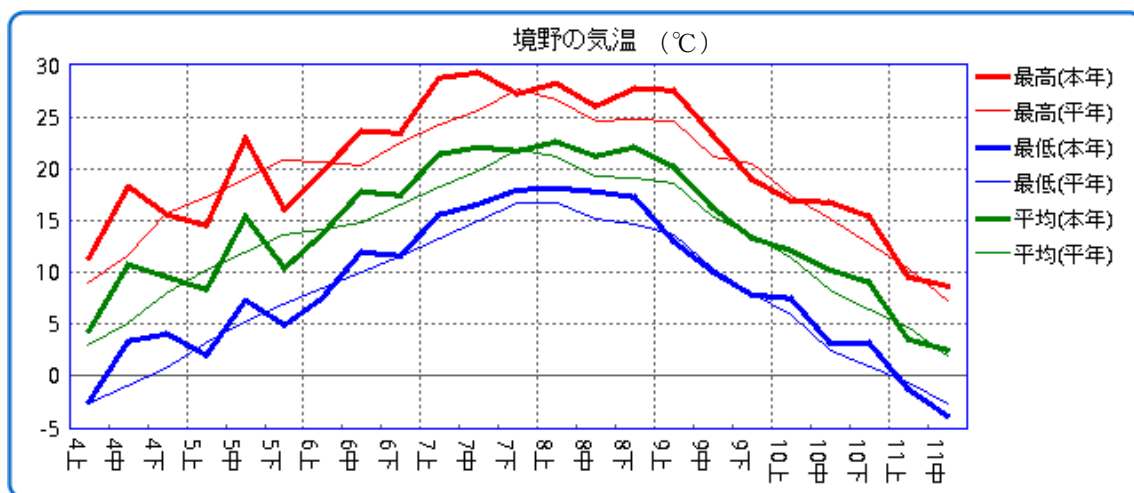
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量および日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

**気温：**5月はやや低く、6月はやや高く、7月・8月は高く、9月はやや高かった。この期間の日平均気温の積算値は2690.8℃であった(平年差154.3℃、平年比106%)。

**降水量：**5月は平年よりやや多く、6月は少なく、7月は平年並、8月はやや多く、9月はやや少なかった。この期間の降水量の積算値は511.0mmであった(平年差3.3mm、平年比101%)。

**日照時間：**5月・6月・7月・8月・9月とも平年並であった。この期間の日照時間の積算値は889.7時間であった(平年差58.5時間、平年比107%)。

## 2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



### 3) 気象表

| 年月        | 旬  | 平均気温(℃) |       |      | 最高気温(℃) |       |      | 最低気温(℃) |       |      | 降水量(mm) |       |       | 日照時間(hr) |       |       |
|-----------|----|---------|-------|------|---------|-------|------|---------|-------|------|---------|-------|-------|----------|-------|-------|
|           |    | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較    | 本年       | 10年平均 | 比較    |
| 2024年     | 上旬 | 4.4     | 2.9   | 1.5  | 11.5    | 9.0   | 2.5  | -2.4    | -2.7  | 0.3  | 19.5    | 16.7  | 2.8   | 82.8     | 63.1  | 19.7  |
| 4月        | 中旬 | 10.7    | 5.0   | 5.7  | 18.3    | 11.5  | 6.8  | 3.4     | -1.0  | 4.4  | 2.0     | 17.4  | -15.4 | 73.5     | 60.7  | 12.8  |
|           | 下旬 | 9.5     | 8.0   | 1.5  | 15.6    | 15.6  | 0.0  | 4.1     | 0.7   | 3.4  | 9.0     | 14.9  | -5.9  | 49.0     | 72.6  | -23.6 |
|           | 上旬 | 8.4     | 10.2  | -1.8 | 14.6    | 17.3  | -2.7 | 2.0     | 3.2   | -1.2 | 14.5    | 16.0  | -1.5  | 65.5     | 57.5  | 8.0   |
| 5月        | 中旬 | 15.4    | 11.9  | 3.5  | 22.9    | 19.0  | 3.9  | 7.3     | 5.2   | 2.1  | 25.5    | 20.9  | 4.6   | 82.3     | 69.0  | 13.3  |
|           | 下旬 | 10.4    | 13.7  | -3.3 | 16.0    | 20.8  | -4.8 | 4.9     | 7.0   | -2.1 | 30.5    | 19.5  | 11.0  | 34.7     | 68.4  | -33.7 |
|           | 上旬 | 13.6    | 14.1  | -0.5 | 19.6    | 20.6  | -1.0 | 7.4     | 8.4   | -1.0 | 9.5     | 26.6  | -17.1 | 75.6     | 55.3  | 20.3  |
| 6月        | 中旬 | 17.7    | 14.8  | 2.9  | 23.6    | 20.3  | 3.3  | 12.0    | 10.0  | 2.0  | 11.0    | 29.4  | -18.4 | 55.1     | 51.3  | 3.8   |
|           | 下旬 | 17.4    | 16.6  | 0.8  | 23.5    | 22.5  | 1.0  | 11.6    | 11.5  | 0.1  | 23.0    | 24.6  | -1.6  | 53.4     | 51.5  | 1.9   |
|           | 上旬 | 21.4    | 18.2  | 3.2  | 28.8    | 24.2  | 4.6  | 15.6    | 13.2  | 2.4  | 15.0    | 35.0  | -20.0 | 65.2     | 52.3  | 12.9  |
| 7月        | 中旬 | 22.1    | 19.8  | 2.3  | 29.3    | 25.6  | 3.7  | 16.6    | 15.0  | 1.6  | 31.0    | 36.9  | -5.9  | 77.1     | 55.3  | 21.8  |
|           | 下旬 | 21.8    | 21.8  | 0.0  | 27.2    | 27.7  | -0.5 | 17.9    | 16.7  | 1.2  | 64.0    | 23.2  | 40.8  | 39.2     | 69.3  | -30.1 |
|           | 上旬 | 22.5    | 21.1  | 1.4  | 28.3    | 26.6  | 1.7  | 18.1    | 16.7  | 1.4  | 132.5   | 52.3  | 80.2  | 48.1     | 49.9  | -1.8  |
| 8月        | 中旬 | 21.2    | 19.3  | 1.9  | 26.0    | 24.6  | 1.4  | 17.7    | 15.1  | 2.6  | 29.0    | 71.5  | -42.5 | 50.6     | 40.8  | 9.8   |
|           | 下旬 | 22.0    | 19.1  | 2.9  | 27.7    | 24.7  | 3.0  | 17.2    | 14.6  | 2.6  | 59.0    | 52.2  | 6.8   | 52.0     | 50.9  | 1.1   |
|           | 上旬 | 20.2    | 18.6  | 1.6  | 27.6    | 24.6  | 3.0  | 13.0    | 13.6  | -0.6 | 0.5     | 31.6  | -31.1 | 90.4     | 53.9  | 36.5  |
| 9月        | 中旬 | 16.3    | 15.3  | 1.0  | 23.2    | 21.1  | 2.1  | 10.1    | 10.3  | -0.2 | 32.0    | 41.6  | -9.6  | 51.3     | 47.7  | 3.6   |
|           | 下旬 | 13.3    | 13.7  | -0.4 | 18.9    | 20.4  | -1.5 | 7.8     | 8.0   | -0.2 | 34.0    | 26.4  | 7.6   | 49.2     | 58.1  | -8.9  |
|           | 上旬 | 12.1    | 11.4  | 0.7  | 17.0    | 17.4  | -0.4 | 7.5     | 5.9   | 1.6  | 39.0    | 36.7  | 2.3   | 40.3     | 52.1  | -11.8 |
| 10月       | 中旬 | 10.2    | 8.3   | 1.9  | 16.7    | 15.1  | 1.6  | 3.2     | 2.4   | 0.8  | 29.0    | 17.4  | 11.6  | 69.7     | 57.4  | 12.3  |
|           | 下旬 | 9.0     | 6.4   | 2.6  | 15.3    | 12.8  | 2.5  | 3.2     | 0.9   | 2.3  | 20.5    | 20.1  | 0.4   | 58.4     | 59.0  | -0.6  |
|           | 上旬 | 3.6     | 4.7   | -1.1 | 9.6     | 10.4  | -0.8 | -1.3    | -0.6  | -0.7 | 0.5     | 26.7  | -26.2 | 43.5     | 43.4  | 0.1   |
| 11月       | 中旬 | 2.5     | 1.9   | 0.6  | 8.7     | 7.2   | 1.5  | -3.8    | -2.7  | -1.1 | 1.5     | 11.1  | -9.6  | 40.0     | 47.4  | -7.4  |
|           |    | 平均気温(℃) |       |      | 最高気温(℃) |       |      | 最低気温(℃) |       |      | 降水量(mm) |       |       | 日照時間(hr) |       |       |
|           |    | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較   | 本年      | 10年平均 | 比較    | 本年       | 10年平均 | 比較    |
| 4月        |    | 8.2     | 5.3   | 2.9  | 15.1    | 12.0  | 3.1  | 1.7     | -1.0  | 2.7  | 30.5    | 49.0  | -18.5 | 205.3    | 196.4 | 8.9   |
| 5月        |    | 11.4    | 12.0  | -0.6 | 17.8    | 19.1  | -1.3 | 4.7     | 5.2   | -0.5 | 70.5    | 56.3  | 14.2  | 182.5    | 194.9 | -12.4 |
| 6月        |    | 16.2    | 15.2  | 1.0  | 22.2    | 21.1  | 1.1  | 10.3    | 10.0  | 0.3  | 43.5    | 80.5  | -37.0 | 184.1    | 158.1 | 26.0  |
| 7月        |    | 21.8    | 20.0  | 1.8  | 28.4    | 25.9  | 2.5  | 16.7    | 15.0  | 1.7  | 110.0   | 95.1  | 14.9  | 181.5    | 176.8 | 4.7   |
| 8月        |    | 21.9    | 19.8  | 2.1  | 27.3    | 25.3  | 2.0  | 17.6    | 15.4  | 2.2  | 220.5   | 175.9 | 44.6  | 150.7    | 141.6 | 9.1   |
| 9月        |    | 16.6    | 15.9  | 0.7  | 23.3    | 22.0  | 1.3  | 10.3    | 10.6  | -0.3 | 66.5    | 99.6  | -33.1 | 190.9    | 159.7 | 31.2  |
| 10月       |    | 10.4    | 8.6   | 1.8  | 16.3    | 15.0  | 1.3  | 4.6     | 3.0   | 1.6  | 88.5    | 74.2  | 14.3  | 168.4    | 168.5 | -0.1  |
| 11月(中旬まで) |    | 3.1     | 3.3   | -0.2 | 9.2     | 8.8   | 0.4  | -2.6    | -1.7  | -0.9 | 2.0     | 37.8  | -35.8 | 83.5     | 90.8  | -7.3  |

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。  
10年平均は前10か年の平均値である。

### 4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

| 年次 | 初霜<br>(年. 月. 日) | 根雪始<br>(年. 月. 日) | 通常の根雪終<br>(年. 月. 日) | 積雪期間<br>(日) | 降雪終<br>(年. 月. 日) | 耕鋤始<br>(年. 月. 日) | 晩霜<br>(年. 月. 日) | 初霜<br>(年. 月. 日) | 無霜間<br>(日) | 降雪始<br>(年. 月. 日) |
|----|-----------------|------------------|---------------------|-------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|------------|------------------|
| 本年 | 2023.10.17      | 2023.12.16       | 2024.4.4            | 111         | 2024.5.8         | 2024.4.17        | 2024.5.9        | 2024.10.14      | 157        | 2024.10.20       |
| 平年 | 10.13           | 12.10            | 4.5                 | 117         | 4.24             | 4.22             | 5.10            | 10.14           | 155        | 11.7             |
| 比較 | 4               | 6                | -1                  | -6          | 14               | -5               | -1              | 0               | 2          | -18              |

| 項目                | 項目    | 平均気温    | 降水量   | 日照時間  |
|-------------------|-------|---------|-------|-------|
|                   |       | (℃)     | (mm)  | (hr)  |
| 5月上旬<br>～<br>9月下旬 | 本年    | 2,690.8 | 511.0 | 889.7 |
|                   | 10年平均 | 2,536.5 | 507.7 | 831.2 |
|                   | 比較    | 154.3   | 3.3   | 58.5  |

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。  
平年値は前10か年の平均値である。

## 2 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦（令和5年9月播種）

作 況：良

事 由：播種期は平年より4日遅い9月25日であった。出芽期は平年より3日遅い10月1日であった。播種が遅かったが、出芽期以降、平均気温が平年より高く経過したため、越冬前の草丈は平年並みで茎数は平年を上回った。根雪始は平年より6日遅い12月16日、根雪終は平年より1日早い4月4日で、根雪期間は平年より6日短かった。作況の調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が根雪の観測地点より6日早い3月29日であった。雪腐病の発生は僅かに認められた。コムギ縞萎縮病が発生し一部に萎縮症状が認められたが、融雪後の平均気温が平年に比べ4

月は高く経過したため、出穂期は平年より3日早い6月5日であった。6月下旬から7月中旬の気温は高く推移したため、登熟は平年よりやや早く進み、成熟期は平年より5日早く7月18日だった。登熟期間は平年より2日短くなった。稈長は平年を上回り、穂長は平年並み、穂数は平年を上回った。穂数が平年を上回ったこと、7月上、中旬の日照時間が長かったことにより、子実重は平年比129%であった。リットル重、千粒重ともに平年並だった。検査等級は1等であった。

これらのことから、本年の作況は良である。

| 品種名                       |                        | きたほなみ |      |      |
|---------------------------|------------------------|-------|------|------|
| 項目／年次                     |                        | 本年    | 平年   | 比較   |
| 播種期                       | (令和5年月.日)              | 9.25  | 9.21 | 4    |
| 出芽期                       | (令和5年月.日)              | 10.01 | 9.28 | 3    |
| 出穂期                       | (令和6年月.日)              | 6.05  | 6.08 | △ 3  |
| 成熟期                       | (令和6年月.日)              | 7.18  | 7.23 | △ 5  |
| 草丈<br>(cm)                | (令和5年11月20日)           | 15.4  | 15.3 | 0.1  |
|                           | (令和6年5月20日)            | 49.0  | 35.1 | 13.9 |
|                           | (令和6年6月20日)            | 81.9  | 81.9 | 0.0  |
| 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | (令和5年11月20日)           | 1263  | 1048 | 215  |
|                           | (令和6年5月20日)            | 1429  | 1433 | △ 4  |
|                           | (令和6年6月20日)            | 839   | 767  | 72   |
| 成熟期                       | 稈長 (cm)                | 84    | 75   | 9    |
|                           | 穂長 (cm)                | 8.3   | 8.2  | 0.1  |
|                           | 穂数 (本/m <sup>2</sup> ) | 876   | 685  | 191  |
| 子実重 (kg/10a)              |                        | 826   | 641  | 185  |
| 同上平年比 (%)                 |                        | 129   | 100  | 29   |
| リットル重 (g)                 |                        | 784   | 787  | △ 3  |
| 千粒重 (g)                   |                        | 38.5  | 38.4 | 0.1  |
| 品質 (検査等級)                 |                        | 1     | 1    | -    |

注) 平年値は前7か年中、令和元年（最豊）、令和4年（最凶）を除く5か年の平均値。

## 2) 秋まき小麦（令和6年9月播種）

作 況：やや良

事 由：播種期は平年より2日早い9月19日であった。出芽期は平年より2日早い9月27日であった。出芽期以降、平均気温が10月上旬から中旬は平年よりやや高く、10月下旬が極めて高

く経過したため、越冬前の草丈は平年より高く、茎数は平年より多かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

| 品種名          |              | きたほなみ |      |     |
|--------------|--------------|-------|------|-----|
| 項目／年次        |              | 本年    | 平年   | 比較  |
| 播種期          | (令和6年月.日)    | 9.19  | 9.21 | △ 2 |
| 出芽期          | (令和6年月.日)    | 9.27  | 9.29 | △ 2 |
| 出穂期          | (令和7年月.日)    |       | 6.07 |     |
| 成熟期          | (令和7年月.日)    |       | 7.22 |     |
| 草丈<br>(cm)   | (令和6年11月20日) | 22.0  | 15.7 | 6.3 |
|              | (令和7年5月20日)  |       | 38.0 |     |
|              | (令和7年6月20日)  |       | 81.0 |     |
| 茎数<br>(本/㎡)  | (令和6年11月20日) | 1959  | 1164 | 795 |
|              | (令和7年5月20日)  |       | 1516 |     |
|              | (令和7年6月20日)  |       | 805  |     |
| 成熟期          | 稈長 (cm)      |       | 76   |     |
|              | 穂長 (cm)      |       | 8.1  |     |
|              | 穂数 (本/㎡)     |       | 733  |     |
| 子実重 (kg/10a) |              |       | 663  |     |
| 同上平年比 (%)    |              |       | 100  |     |
| リットル重 (g)    |              |       | 782  |     |
| 千粒重 (g)      |              |       | 38.3 |     |
| 品質 (検査等級)    |              |       | 1    |     |

注) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均値。

### 3) 春まき小麦

作 況：良

事 由：調査圃場は融雪剤散布により3月28日に融雪期となった、播種期は平年より1日遅い4月15日となった。4月中旬の平均気温が極めて高く、4月下旬はやや高かったため、出芽期は2日早くなった。出穂期は平年並～1日早かった。平年と比較して稈長は並～やや長く、穂長は並～長く、穂数はやや少なかった。

倒伏はほとんど見られなかったが、気温が高く推移したことから「春よ恋」で赤さび病の発

生が多く、赤かび病の発生はわずかに見られた。7月上旬の平均気温が極めて高く、中旬は高く推移したことから、成熟期は平年より7日早く、登熟期間は平年より6～7日短かったものの、子実重は平年比110～124%で平年を上回った。リットル重は平年並～やや重く、千粒重は平年並～軽かった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

| 調査項目         | 春よ恋     |       |       | はるきらり  |       |       |        |
|--------------|---------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
|              | 本年      | 平年    | 比較    | 本年     | 平年    | 比較    |        |
| 播種期 (月. 日)   | 4. 15   | 4. 14 | 1     | 4. 15  | 4. 14 | 1     |        |
| 出芽期 (月. 日)   | 4. 26   | 4. 28 | △ 2   | 4. 27  | 4. 29 | △ 2   |        |
| 出穂期 (月. 日)   | 6. 18   | 6. 19 | △ 1   | 6. 17  | 6. 17 | 0     |        |
| 成熟期 (月. 日)   | 7. 28   | 8. 4  | △ 7   | 7. 31  | 8. 7  | △ 7   |        |
| 草丈 (cm)      | (5月20日) | 31. 4 | 21. 5 | 9. 9   | 31. 6 | 23. 1 | 8. 5   |
|              | (6月20日) | 83. 2 | 71. 5 | 11. 7  | 83. 1 | 71. 7 | 11. 4  |
| 茎数 (本/㎡)     | (5月20日) | 943   | 665   | 278    | 911   | 647   | 265    |
|              | (6月20日) | 751   | 771   | △ 20   | 648   | 739   | △ 91   |
| 稈長 (cm)      | (7月20日) | 97    | 93    | 4      | 95    | 90    | 5      |
| 穂長 (cm)      | (7月20日) | 8. 8  | 8. 5  | 0. 3   | 8. 4  | 7. 8  | 0. 6   |
| 穂数 (本/㎡)     | (7月20日) | 594   | 669   | △ 75   | 563   | 669   | △ 106  |
| 子実重 (kg/10a) |         | 548   | 500   | 48     | 639   | 516   | 123    |
| 同上平年比 (%)    |         | 110   | 100   | 10     | 124   | 100   | 24     |
| リットル重 (g)    |         | 788   | 782   | 6      | 795   | 782   | 13     |
| 千粒重 (g)      |         | 36. 3 | 39. 5 | △ 3. 2 | 40. 9 | 41. 3 | △ 0. 4 |
| 品質 (検査等級)    |         | 1     | 1     | －      | 1     | 1     | －      |

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

#### 4) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：平年並

事 由：播種は平年より7日遅い5月23日、出芽期は平年より2日遅い6月6日であった。播種直後は気温が低かったものの、6月中旬以降は高温で経過し、雄穂開花期は平年より1日早く、絹糸抽出期は平年と同日であった。以降も高温で経過し、登熟が平年よりやや早く進んだ。収穫

期は平年より1日早い9月25日であり、収穫時の熟度は黄熟中期と平年よりやや早く進んでいた。稈長は平年並であった。総体の乾物率は2.4ポイント高く、乾物総重および推定TDN収量は平年比96%および98%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

| 調査項目             |         | KD320  |               |        |
|------------------|---------|--------|---------------|--------|
|                  |         | 本年     | 平年            | 比較     |
| 播種期              | (月. 日)  | 5. 23  | 5. 16         | 7      |
| 出芽期              | (月. 日)  | 6. 06  | 6. 04         | 2      |
| 開花期              | (月. 日)  | 7. 31  | 8. 01         | △ 1    |
| 抽糸期              | (月. 日)  | 7. 31  | 7. 31         | 0      |
| 収穫期              | (月. 日)  | 9. 25  | 9. 26         | △ 1    |
| 収穫時の熟度           |         | 黄熟中期   | 黄熟初期～<br>黄熟中期 | -      |
| 草丈 (cm)          | (6月20日) | 29. 6  | 29. 2         | 0. 4   |
|                  | (7月20日) | 188. 3 | 181. 2        | 7. 1   |
|                  | (8月20日) | 277. 7 | 279. 8        | △ 2. 1 |
| 稈長 (cm)          | (9月20日) | 244    | 252           | △ 8    |
| 葉数 (枚)           | (6月20日) | 4. 6   | 4. 8          | △ 0. 2 |
|                  | (7月20日) | 13. 1  | 12. 8         | 0. 3   |
|                  | (8月20日) | 15. 6  | 15. 2         | 0. 4   |
| 生総重 (kg/10a)     |         | 5754   | 6564          | △ 810  |
| 乾物茎葉重 (kg/10a)   |         | 826    | 997           | △ 171  |
| 乾物雌穂重 (kg/10a)   |         | 1150   | 1066          | 84     |
| 乾物総量 (kg/10a)    |         | 1976   | 2063          | △ 87   |
| 同上平年比 (%)        |         | 96     | 100           | △ 4    |
| 推定TDN収量 (kg/10a) |         | 1458   | 1486          | △ 28   |
| 同上平年比 (%)        |         | 98     | 100           | △ 2    |
| 総体の乾物率 (%)       |         | 34. 3  | 31. 9         | 2. 4   |
| 乾雌穂重割合 (%)       |         | 58. 3  | 51. 7         | 6. 6   |
| 有効雌穂割合 (%)       |         | 100    | 100           | 0. 0   |

注1) 一昨年度から調査品種を「KD320」に変更。平年値は前5か年の平均。

2) 推定TDN収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

## 5) 大 豆

### 作 況：平年並

事 由： 播種は平年より2日遅い5月22日に行い、播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より4日遅い6月8日であった。出芽後は気温が平年並から高く経過し、生育は順調に進んだ結果、開花始は平年より2日早い7月15日、成熟期は平年より11日早い9月11日であった。成熟期の主茎長、主茎節数、分枝数は平年をやや上

回った。着莢数は平年をやや上回ったが、一莢内粒数は平年並で百粒重はやや軽かったため子実重は平年比102%であった。屑粒率は平年よりもやや低かったが、外観品質は平年よりもやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

| 品種名          |         | ユキホマレ |      |        |
|--------------|---------|-------|------|--------|
| 調査項目         |         | 本年    | 平年   | 比較     |
| 播種期          | (月.日)   | 5.22  | 5.20 | 2      |
| 出芽期          | (月.日)   | 6.08  | 6.04 | 4      |
| 開花始          | (月.日)   | 7.15  | 7.17 | △ 2    |
| 成熟期          | (月.日)   | 9.11  | 9.22 | △ 11   |
| 主茎長<br>(cm)  | (6月20日) | 11.2  | 9.2  | 2.0    |
|              | (7月20日) | 53.0  | 50.3 | 2.7    |
|              | (8月20日) | 64.0  | 61.9 | 2.1    |
|              | (9月20日) |       | 63.5 |        |
|              | (成熟期)   | 68.0  | 63.0 | 5.0    |
| 本葉<br>数(枚)   | (6月20日) | 1.7   | 0.9  | 0.8    |
|              | (7月20日) | 7.2   | 7.9  | △ 0.7  |
| 主茎節数         | (8月20日) | 10.0  | 10.2 | △ 0.2  |
|              | (9月20日) |       | 10.1 |        |
|              | (成熟期)   | 10.5  | 10.1 | 0.4    |
| 分枝数<br>(本/株) | (7月20日) | 5.4   | 4.7  | 0.7    |
|              | (8月20日) | 6.2   | 5.4  | 0.8    |
|              | (9月20日) |       | 5.0  |        |
|              | (成熟期)   | 5.6   | 4.9  | 0.7    |
| 着莢数<br>(個/株) | (8月20日) | 85.5  | 82.1 | 3.4    |
|              | (9月20日) |       | 75.8 |        |
|              | (成熟期)   | 81.8  | 75.5 | 6.3    |
| 一莢内粒数        |         | 1.87  | 1.93 | △ 0.06 |
| 子実重(kg/10a)  |         | 372   | 366  | 6      |
| 同上平年比(%)     |         | 102   | 100  | 2      |
| 百粒重(g)       |         | 29.7  | 32.7 | △ 3.0  |
| 屑粒率(%)       |         | 0.7   | 1.7  | △ 1.0  |
| 品質(検査等級)     |         | 2中    | 2上   | —      |

注1) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和5年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

## 6) 小 豆

### 作 況 : 良

事 由：播種は平年より2日遅い5月22日に行い、播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より2～3日遅い6月12日であった。出芽後は気温が平年並から高く経過し、生育は順調に進んだ結果、開花始は平年より3～4日早い7月21日、成熟期は「エリモシヨウズ」では平年より13日早い9月15日、「きたろまん」では14日早い9月13日であった。両品種ともに成熟期の分枝数は平年を下回ったが、主茎長および主茎節数は平年を上回った。一莢内粒数は「エリモシヨウズ」

では平年をやや上回り、「きたろまん」では平年並で、両品種ともに百粒重は平年よりも軽い。着莢数は平年を上回ったため、子実重は「エリモシヨウズ」では平年比114%、「きたろまん」では平年比117%であった。両品種ともに屑粒率は平年を下回り、外観品質は「エリモシヨウズ」では平年よりもやや劣ったが、「きたろまん」では平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

| 調査項目         |         | エリモシヨウズ |      |       | きたろまん |      |        |
|--------------|---------|---------|------|-------|-------|------|--------|
|              |         | 本年      | 平年   | 比較    | 本年    | 平年   | 比較     |
| 播種期 (月.日)    |         | 5.22    | 5.21 | 1     | 5.22  | 5.21 | 1      |
| 出芽期 (月.日)    |         | 6.12    | 6.09 | 3     | 6.12  | 6.10 | 2      |
| 開花始 (月.日)    |         | 7.21    | 7.25 | △ 4   | 7.21  | 7.24 | △ 3    |
| 成熟期 (月.日)    |         | 9.15    | 9.28 | △ 13  | 9.13  | 9.27 | △ 14   |
| 主茎長<br>(cm)  | (6月20日) | 3.4     | 3.4  | 0.0   | 3.4   | 3.3  | 0.1    |
|              | (7月20日) | 14.0    | 18.6 | △ 4.6 | 15.0  | 17.6 | △ 2.6  |
|              | (8月20日) | 74.0    | 63.1 | 10.9  | 90.0  | 63.7 | 26.3   |
|              | (9月20日) |         | 68.6 |       |       | 72.6 |        |
|              | (成熟期)   | 84.7    | 67.4 | 17.3  | 100.7 | 68.9 | 31.8   |
| 本葉数<br>(枚)   | (6月20日) | 0.6     | 0.3  | 0.3   | 0.7   | 0.3  | 0.4    |
|              | (7月20日) | 6.4     | 6.7  | △ 0.3 | 6.4   | 6.4  | 0.0    |
| 主茎節数         | (8月20日) | 16.2    | 14.2 | 2.0   | 16.2  | 13.4 | 2.8    |
|              | (9月20日) |         | 14.3 |       |       | 13.7 |        |
|              | (成熟期)   | 17.3    | 14.0 | 3.3   | 16.6  | 13.5 | 3.1    |
| 分枝数<br>(本/株) | (7月20日) | 2.1     | 2.3  | △ 0.2 | 2.2   | 2.0  | 0.2    |
|              | (8月20日) | 2.5     | 4.3  | △ 1.8 | 2.1   | 3.3  | △ 1.2  |
|              | (9月20日) |         | 3.7  |       |       | 2.9  |        |
|              | (成熟期)   | 2.4     | 4.3  | △ 1.9 | 2.0   | 3.4  | △ 1.4  |
| 着莢数<br>(個/株) | (8月20日) | 65.9    | 38.7 | 27.2  | 57.3  | 36.4 | 20.9   |
|              | (9月20日) |         | 51.2 |       |       | 49.7 |        |
|              | (成熟期)   | 67.4    | 53.2 | 14.2  | 58.0  | 51.0 | 7.0    |
| 一莢内粒数        |         | 6.65    | 6.27 | 0.38  | 6.29  | 6.38 | △ 0.09 |
| 子実重 (kg/10a) |         | 423     | 372  | 51    | 429   | 368  | 61     |
| 同上平年比 (%)    |         | 114     | 100  | 14    | 117   | 100  | 17     |
| 百粒重 (g)      |         | 12.8    | 15.1 | △ 2.3 | 15.4  | 16.8 | △ 1.4  |
| 屑粒率 (%)      |         | 5.8     | 9.1  | △ 3.3 | 5.0   | 8.4  | △ 3.4  |
| 品質 (検査等級)    |         | 4中      | 4上   | —     | 4上    | 4上   | —      |

注1) 平年値は前7か年中、令和5年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜 豆

### 作 況：不良

事 由：播種は平年より2日遅い5月22日に行い、播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より9日遅い6月11日であった。出芽後は気温が平年並から高く経過したが、降水量はやや少なかったことから、開花始は平年と同日の7月7日であった。開花後は高温で経過したため、成熟期は平年より5日早い8月26日であった。成熟期の草丈および分枝数は平年をやや上回ったが、

主茎節数はやや下回った。着莢数は平年をやや上回ったが、一莢内粒数は少なく、百粒重もやや軽かったため、子実重は平年比83%であった。成熟期を迎えた8月下旬の降雨により変色粒（色流れ粒）が発生したため、屑粒率は平年よりも高く、外観品質は平年よりもやや劣った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

| 調査項目         |         | 大正金時 |      |        |
|--------------|---------|------|------|--------|
|              |         | 本年   | 平年   | 比較     |
| 播種期          | (月.日)   | 5.22 | 5.20 | 2      |
| 出芽期          | (月.日)   | 6.11 | 6.02 | 9      |
| 開花始          | (月.日)   | 7.07 | 7.07 | 0      |
| 成熟期          | (月.日)   | 8.26 | 8.31 | △ 5    |
| 草丈<br>(cm)   | (6月20日) | 10.0 | 11.1 | △ 1.1  |
|              | (7月20日) | 45.3 | 38.2 | 7.1    |
|              | (8月20日) | 46.0 | 40.8 | 5.2    |
|              | (成熟期)   | 45.1 | 41.2 | 3.9    |
| 本葉数<br>(枚)   | (6月20日) | 1.1  | 1.1  | 0.0    |
|              | (7月20日) | 3.2  | 3.9  | △ 0.7  |
| 主茎節数         | (8月20日) | 5.0  | 5.4  | △ 0.4  |
|              | (成熟期)   | 5.1  | 5.4  | △ 0.3  |
| 分枝数<br>(本/株) | (7月20日) | 6.1  | 5.6  | 0.5    |
|              | (8月20日) | 6.5  | 5.4  | 1.1    |
|              | (成熟期)   | 6.4  | 5.5  | 0.9    |
| 着莢数<br>(個/株) | (8月20日) | 23.7 | 20.2 | 3.5    |
|              | (成熟期)   | 21.4 | 20.2 | 1.2    |
| 一莢内粒数        |         | 2.47 | 2.83 | △ 0.36 |
| 子実重(kg/10a)  |         | 257  | 309  | 100    |
| 同上平年比(%)     |         | 83   | 100  | △ 17   |
| 百粒重(g)       |         | 61.5 | 64.6 | △ 3.1  |
| 屑粒率(%)       |         | 26.9 | 11.9 | 15.0   |
| 品質(検査等級)     |         | 4中   | 4上   | —      |

注1) 平年値は前7か年中、令和4年(最豊)、令和3年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

# 8) ばれいしょ

## 作 況： 平 年 並

事 由： 植え付けは5月10日に行った。植え付け後の5月中旬～下旬は平均気温の変動が大きかったが、両品種の萌芽期は平年並であった。浴光催芽期間中の気温が高かったことから、両品種の茎数は平年よりも多かった。6月中旬～下旬の気温が平年よりも高かったことから、開花始は平年よりも2～3日早かった。6月下旬以降の降水がやや少なかったことから、生育が停滞し、茎長は「男爵薯」で平年並、「コナユタカ」は短かった。

「男爵薯」の枯ちよう期は平年よりも8日早

かった。上いも数は平年よりも多く、上いも平均重はやや軽かった。上いも重は平年比104%で、でん粉価は平年並であった。「コナユタカ」の枯ちよう期は、8月上旬～9月中旬まで高温で推移したことから、平年よりも13日早かった。上いも数は平年並であったが、上いも平均重が軽く、上いも重は平年比88%であった。でん粉価は平年よりも1.2ポイント高く、でん粉重は平年比94%であった。

以上のことから、「男爵薯」と「コナユタカ」の収量を鑑み、本年の作況は「平年並」である。

| 調査項目          |         | 男爵薯   |       |        | コナユタカ |        |       |
|---------------|---------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|
|               |         | 本年    | 平年    | 比較     | 本年    | 平年     | 比較    |
| 植付期           | (月. 日)  | 5. 10 | 5. 11 | △ 1    | 5. 10 | 5. 11  | △ 1   |
| 萌芽期           | (月. 日)  | 5. 27 | 5. 28 | △ 1    | 5. 30 | 5. 31  | △ 1   |
| 開花始           | (月. 日)  | 6. 24 | 6. 27 | △ 3    | 6. 30 | 7. 02  | △ 2   |
| 枯ちよう期         | (月. 日)  | 8. 25 | 9. 02 | △ 8    | 9. 30 | 10. 13 | △ 13  |
| 茎長 (cm)       | (6月20日) | 25    | 25    | 0      | 16    | 15     | 1     |
|               | (7月20日) | 58    | 55    | 3      | 72    | 81     | △ 9   |
|               | (8月20日) | 56    | 56    | 0      | 93    | 104    | △ 11  |
| 茎数 (本/株)      | (6月20日) | 5. 3  | 3. 9  | 1. 4   | 3. 1  | 2. 4   | 0. 7  |
|               | (7月20日) | 5. 5  | 4. 5  | 1. 0   | 3. 0  | 2. 7   | 0. 3  |
| 上いも重 (kg/10a) | (8月20日) | 5162  | 5140  | 22     | 4140  | 3994   | 146   |
|               | (9月20日) | 5462  | 5227  | 235    | 5164  | 5873   | △ 709 |
| でん粉価 (%)      | (8月20日) | 14. 7 | 15. 4 | △ 0. 7 | 19. 7 | 18. 8  | 0. 9  |
|               | (9月20日) | 15. 0 | 15. 1 | △ 0. 1 | 23. 0 | 20. 3  | 2. 7  |
| でん粉重 (kg/10a) | (9月20日) | -     | -     | -      | 1135  | 1138   | △ 3   |
| 上いも数 (個/株)    |         | 11. 9 | 10. 9 | 1. 0   | 8. 3  | 8. 0   | 0. 3  |
| 上いも平均重 (g)    |         | 104   | 109   | △ 5    | 158   | 187    | △ 29  |
| 上いも重 (kg/10a) |         | 5462  | 5227  | 235    | 5766  | 6532   | △ 766 |
| 同上平年比 (%)     |         | 104   | 100   | 4      | 88    | 100    | △ 12  |
| でん粉価 (%)      |         | 15. 0 | 15. 1 | △ 0. 1 | 22. 1 | 20. 9  | 1. 2  |
| でん粉重 (kg/10a) |         | -     | -     | -      | 1217  | 1295   | △ 78  |
| 同上平年比 (%)     |         | -     | -     | -      | 94    | 100    | △ 6   |

注) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）、令和3年（最豊）を除く5か年の平均

# 9) てんさい

## 作 況：平年並

事 由：移植栽培の播種は、平年より1日早い3月23日に行った。以降、気温が高めに経過したため、育苗期間中の生育は良好であった。移植は平年より1日早い5月2日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は非常に良好であった。5月9日に降霜があったが、枯死する個体はほとんどなかった。

直播栽培の播種は、平年より3日早い5月2日に行った。出芽期は、平年より4日早い5月12日であった。播種前後に降雨があり土壌水分が適湿であったため、出芽は良好であった。

その後、5月上旬の気温は低かったが、中旬が極めて高かったため、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並となった。

5月下旬は気温が低かったものの、6月上旬中旬は平年並以上に推移し、日照時間も6月上旬以降十分であったため、生育が進み、移植栽培、直播栽培とも、すべての項目で平年並あるいは平年をやや上回った。

6月下旬から7月中旬は、気温が高く日照時間がやや多かったため生育が進み、草丈、生葉数、

根重は平年を上回った。一方、降水量が平年よりやや少なかった影響で、移植の茎葉重は平年をやや下回った。

7月下旬から8月中旬は、気温が高く、降水量、日照時間が十分であったため生育が進み、すべての項目で平年並あるいは平年を上回った。

8月下旬から9月中旬は、気温がおおむね高く経過し、降水量、日照時間が十分であったため生育が進み、根中糖分以外のほぼすべての項目で、平年並あるいは平年を上回った。一方、根中糖分は、最低気温が高めに推移したため平年を下回った。

収穫は、平年より2日早い10月18日に行った。

9月下旬から10月中旬の気温はやや高く、降水量はやや多かったため、根部の肥大が進み、根重は平年を上回ったが、根中糖分は7月8月の最低気温が平年より高かったため、平年を下回った。糖量は、移植栽培では平年を下回ったが、直播栽培では平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

| 調査項目       |         | 移植     |        |        |        |        |        | 直播     |        |        |
|------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|            |         | ライエン   |        |        | アマホマレ  |        |        | ライエン   |        |        |
|            |         | 本 年    | 平 年    | 比 較    | 本 年    | 平 年    | 比 較    | 本 年    | 平 年    | 比 較    |
| 播種期        | (月. 日)  | 3. 23  | 3. 24  | △ 1    | 3. 23  | 3. 24  | △ 1    | 5. 02  | 5. 05  | △ 3    |
| 移植期        | (月. 日)  | 5. 02  | 5. 03  | △ 1    | 5. 02  | 5. 03  | △ 1    | -      | -      | -      |
| 出芽期        | (月. 日)  | -      | -      | -      | -      | -      | -      | 5. 12  | 5. 16  | △ 4    |
| 収穫期        | (月. 日)  | 10. 18 | 10. 20 | △ 2    | 10. 18 | 10. 20 | △ 2    | 10. 18 | 10. 20 | △ 2    |
| 草丈<br>(cm) | (5月20日) | 6. 0   | 7. 1   | △ 1. 1 | 5. 9   | 7. 2   | △ 1. 3 | -      | -      | -      |
|            | (6月20日) | 23. 0  | 22. 3  | 0. 7   | 26. 3  | 23. 9  | 2. 4   | 21. 8  | 14. 1  | 7. 7   |
|            | (7月20日) | 54. 8  | 51. 8  | 3. 0   | 55. 6  | 54. 7  | 0. 9   | 57. 9  | 49. 7  | 8. 2   |
|            | (8月20日) | 58. 8  | 56. 2  | 2. 6   | 63. 7  | 61. 3  | 2. 4   | 61. 8  | 58. 2  | 3. 6   |
|            | (9月20日) | 59. 2  | 57. 3  | 1. 9   | 66. 9  | 63. 7  | 3. 2   | 62. 9  | 60. 1  | 2. 8   |
| 生葉数<br>(枚) | (5月20日) | 7. 4   | 6. 3   | 1. 1   | 5. 9   | 5. 2   | 0. 7   | -      | -      | -      |
|            | (6月20日) | 18. 6  | 12. 5  | 6. 1   | 13. 9  | 11. 4  | 2. 5   | 11. 6  | 9. 0   | 2. 6   |
|            | (7月20日) | 24. 8  | 21. 4  | 3. 4   | 24. 6  | 21. 0  | 3. 6   | 22. 8  | 20. 1  | 2. 7   |
|            | (8月20日) | 31. 5  | 26. 9  | 4. 6   | 28. 1  | 25. 5  | 2. 6   | 25. 6  | 26. 3  | △ 0. 7 |
|            | (9月20日) | 31. 6  | 29. 7  | 1. 9   | 28. 0  | 27. 8  | 0. 2   | 27. 7  | 29. 1  | △ 1. 4 |

注) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）令和5年（最凶）を除く5か年の平均。

表 その2

| 調査項目          |         | 移植    |       |        |       |       |        | 直播    |       |        |
|---------------|---------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
|               |         | ライエン  |       |        | アマホマレ |       |        | ライエン  |       |        |
|               |         | 本 年   | 平 年   | 比 較    | 本 年   | 平 年   | 比 較    | 本 年   | 平 年   | 比 較    |
| 茎葉重<br>(g/個体) | (5月20日) | 1.3   | 1.2   | 0.1    | 1.4   | 1.3   | 0.1    | -     | -     | -      |
|               | (6月20日) | 66    | 65    | 1      | 87    | 68    | 19     | 49    | 14    | 35     |
|               | (7月20日) | 465   | 531   | △ 66   | 538   | 578   | △ 40   | 533   | 411   | 122    |
|               | (8月20日) | 780   | 796   | △ 16   | 923   | 854   | 69     | 856   | 716   | 140    |
|               | (9月20日) | 765   | 723   | 42     | 875   | 842   | 33     | 752   | 737   | 15     |
| 根 重<br>(g/個体) | (6月20日) | 17    | 16    | 1      | 25    | 17    | 8      | 6     | 1     | 5      |
|               | (7月20日) | 282   | 256   | 26     | 280   | 256   | 24     | 251   | 142   | 109    |
|               | (8月20日) | 780   | 706   | 74     | 776   | 724   | 52     | 724   | 563   | 161    |
|               | (9月20日) | 1031  | 973   | 58     | 1000  | 1004  | △ 4    | 990   | 853   | 137    |
| 根 周<br>(cm)   | (7月20日) | 23.2  | 23.5  | △ 0.3  | 22.9  | 22.7  | 0.2    | 22.6  | 19.1  | 3.5    |
|               | (8月20日) | 34.0  | 34.0  | 0.0    | 33.6  | 32.2  | 1.4    | 34.0  | 30.6  | 3.4    |
|               | (9月20日) | 38.6  | 37.9  | 0.7    | 37.6  | 37.0  | 0.6    | 37.8  | 35.9  | 1.9    |
| 根中糖分 (%)      | (9月20日) | 15.62 | 16.99 | △ 1.37 | 15.93 | 16.79 | △ 0.86 | 16.60 | 16.73 | △ 0.13 |
| 茎葉重(kg/10a)   | (収穫期)   | 5109  | 5410  | △ 301  | 5164  | 5873  | △ 709  | 5105  | 5185  | △ 80   |
| 根 重(kg/10a)   | (収穫期)   | 7945  | 7514  | 431    | 7221  | 7024  | 197    | 7649  | 6382  | 1267   |
| 同上平年比 (%)     |         | 106   | 100   | 6      | 103   | 100   | 3      | 120   | 100   | 20     |
| 根中糖分 (%)      | (収穫期)   | 16.42 | 18.34 | △ 1.92 | 16.99 | 18.74 | △ 1.75 | 17.27 | 18.54 | △ 1.27 |
| 同上平年比 (%)     |         | 90    | 100   | △ 10   | 91    | 100   | △ 9    | 93    | 100   | △ 7    |
| 糖量(kg/10a)    | (収穫期)   | 1304  | 1377  | △ 73   | 1227  | 1316  | △ 89   | 1320  | 1182  | 138    |
| 同上平年比 (%)     |         | 95    | 100   | △ 5    | 93    | 100   | △ 7    | 112   | 100   | 12     |

注) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）令和5年（最凶）を除く5か年の平均。

## 10) 牧 草（チモシー）

### 作 況：良

事 由：1番草：萌芽期は平年より1日早い4月16日で、冬損は認められなかった。5月下旬の降水量が多く、6月上旬の日照時間がやや多かったことから、1番草の出穂始および出穂期はそれぞれ平年より2-3日早い6月7日および6月12日であり、乾物収量は平年比109%とやや多収であった。

2番草：収穫は平年より3日早い8月1日に行った。1番草収穫後の平均気温が並～高く経過し、7月下旬から8月上旬の降水量が極めて多かったこ

とから、2番草の乾物収量は平年比140%と多収であり、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比117%であった。

3番草：収穫は平年より2日早い10月1日に行った。8月下旬～9月中旬の平均気温が平年に比べ高く、日照時間はやや多かったことから、乾物収量は平年より36%多い177kg/10aであった。また、1～3番草の合計乾物収量は平年比120%と多収であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

| 品種名<br>調査項目      |           | なつちから  |        |        |
|------------------|-----------|--------|--------|--------|
|                  |           | 本年     | 平年     | 比較     |
| 萌芽期              | (月. 日)    | 4. 16  | 4. 17  | △ 1    |
| 冬損程度             |           | 1. 0   | 1. 0   | 0. 0   |
| 被度 (%)           | (5月20日)   | 100    | 100    | 0      |
|                  | 2番草再生時    | 100    | 100    | 0      |
| 出穂始 (月. 日)       |           | 6. 07  | 6. 10  | △ 3    |
| 出穂期 (月. 日)       |           | 6. 12  | 6. 14  | △ 2    |
| 出穂程度             | 1番草       | 6. 0   | 7. 0   | △ 1. 0 |
| 節間伸長程度           | 2番草       | 4. 0   | 4. 0   | 0      |
| 収穫日              | 1番草       | 6. 12  | 6. 16  | △ 4    |
|                  | 2番草       | 8. 01  | 8. 04  | △ 3    |
|                  | 3番草       | 10. 01 | 10. 03 | △ 2    |
| 倒伏程度             | 1番草       | 1. 0   | 1. 0   | 0      |
| 病害罹病程度           | 1番草       | 1. 0   | 1. 0   | 0      |
|                  | 2番草       | 2. 6   | 2. 0   | 0. 6   |
|                  | 3番草       | 2. 8   | 3. 0   | △ 0. 2 |
| 草丈 (cm)          | (5月20日)   | 55     | 43     | 12     |
|                  | (6月5日)    | 82     | 79     | 3      |
|                  | 1番草       | 98     | 99     | △ 1    |
|                  | 2番草再生時    | 32     | 37     | △ 5    |
|                  | 2番草       | 52     | 60     | △ 8    |
|                  | 3番草再生時    | 40     | 35     | 5      |
|                  | 3番草       | 40     | 38     | 2      |
| 生草収量<br>(kg/10a) | 1番草       | 2, 588 | 2, 425 | 163    |
|                  | 2番草       | 914    | 687    | 227    |
|                  | 1+2番草計    | 3, 502 | 3, 112 | 390    |
|                  | 3番草       | 564    | 457    | 107    |
|                  | 合 計       | 4, 066 | 3, 570 | 496    |
| 乾物率 (%)          | 1番草       | 23. 2  | 23. 0  | 0. 2   |
|                  | 2番草       | 28. 7  | 29. 0  | △ 0. 3 |
|                  | 3番草       | 31. 3  | 29. 0  | 2. 3   |
| 乾物収量<br>(kg/10a) | 1番草       | 601    | 553    | 48     |
|                  | 同上平年比 (%) | 109    | 100    | 9      |
|                  | 2番草       | 263    | 188    | 75     |
|                  | 同上平年比 (%) | 140    | 100    | 40     |
|                  | 1+2番草計    | 864    | 741    | 123    |
|                  | 同上平年比 (%) | 117    | 100    | 17     |
|                  | 3番草       | 177    | 130    | 47     |
|                  | 同上平年比 (%) | 136    | 100    | 36     |
|                  | 合 計       | 1, 041 | 870    | 171    |
|                  | 同上平年比 (%) | 120    | 100    | 20     |

注1) 平年値は前7か年のうち令和4年（最豊）、令和5年（最凶）を除いた前5か年の平均値。

2) 冬損程度は1:無または微～9:甚。出穂程度および節間伸長程度は1:無～9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

付表 1 各作物の耕種概要

| 作物名              | 一区面積<br>(㎡) | 反復 | 前作物     | 畦幅<br>(cm) | 株間<br>(cm) | 一株<br>本数 | 播種粒数<br>(粒/㎡) | 播種量<br>(kg/10a) | 株数<br>(株/10a) |
|------------------|-------------|----|---------|------------|------------|----------|---------------|-----------------|---------------|
| 1. 秋まき小麦         | 5.4         | 4  | ひまわり    | 20         | ドリル        | —        | 255           | —               | —             |
| 2. 春まき小麦         | 6.0         | 4  | 緑肥大豆    | 30         | 条播         | —        | 340           | —               | —             |
| 3. とうもろこし        | 11.2        | 3  | 緑肥えん麦   | 75         | 17.8       | 1        | —             | —               | 7,491         |
| 4. 大 豆           | 9.6         | 3  | 緑肥そば    | 60         | 20         | 2        | —             | —               | 8,333         |
| 5. 小 豆           | 9.6         | 3  | 緑肥そば    | 60         | 20         | 2        | —             | —               | 8,333         |
| 6. 菜 豆           | 9.6         | 3  | 緑肥そば    | 60         | 20         | 2        | —             | —               | 8,333         |
| 7. ばれいしょ         | 37.8        | 3  | 緑肥えん麦   | 75         | 30         | 1        | —             | —               | 4,444         |
| 8. てんさい          | 39.6        | 3  | 緑肥野生えん麦 | 60         | 23.8       | 1        | —             | —               | 7,003         |
| 9. 牧 草<br>(チモシー) | 2.7         | 4  | 緑肥えん麦   | 30         | 条播         | —        | —             | 2.0             | —             |

付表 2 各作物の耕種概要

| 作物名              | 施肥量 (kg/10a) |       |       |      |        |                               | 備考              |
|------------------|--------------|-------|-------|------|--------|-------------------------------|-----------------|
|                  | N            | P2O5  | K2O   | MgO  | 堆肥     | その他                           |                 |
| 1. 秋まき小麦         | 5. 6         | 17. 5 | 7. 0  | 3. 5 | —      | 起生期追肥 N：5. 0                  | 2年目草地<br>年間3回分施 |
| 2. 春まき小麦         | 10. 0        | 18. 0 | 12. 0 | 5. 0 | —      |                               |                 |
| 3. とうもろこし        | 14. 0        | 22. 0 | 12. 0 | 4. 0 | 3, 000 | 炭カル：150                       |                 |
| 4. 大 豆           | 1. 8         | 15. 0 | 7. 8  | 3. 0 | —      |                               |                 |
| 5. 小 豆           | 4. 0         | 20. 0 | 11. 2 | 4. 0 | —      | 〔 造成時<br>炭カル：200<br>ダブリン：30 〕 |                 |
| 6. 菜 豆           | 4. 0         | 20. 0 | 11. 2 | 4. 0 | —      |                               |                 |
| 7. ばれいしょ         | 8. 0         | 20. 0 | 14. 0 | 5. 0 | —      |                               |                 |
| 8. てんさい          | 15. 0        | 30. 0 | 12. 3 | 6. 8 | —      |                               |                 |
| 9. 牧 草<br>(チモシー) | 15. 0        | 15. 0 | 15. 0 | 3. 0 | —      |                               |                 |

### Ⅲ 試験研究および地域支援活動の概要

#### 1 研究部の概要

##### 1) 麦類に関する試験

麦類畑作グループ（麦類）は、秋まき小麦および春まき小麦の新品種育成やそれに係わる栽培試験、二条大麦の適応性検定試験を実施している。

小麦では、「小麦品種開発事業」、「気象変動に対応した高品質で安定生産可能な道産小麦の開発促進」等の各試験研究課題により高品質で耐病性および穂発芽耐性に優れた品種の育成を進めている。「優良品種決定調査」では秋まき小麦の「北見102号」を、春まき小麦では「北見春86号」「北見春87号」を供試し、「北見春86号」「北見春87号」は試験中止とした。秋まき小麦「北見103号」春まき小麦「北見春88号」を新配付系統とした。「春まき小麦の品種選定試験」ではホクレン農総研育成の「HW11号」等について適応性を検討した。

二条大麦では、「二条大麦の品種選定試験」により適応性検定試験を行い「札育12号」、「札育13号」を試験継続とした。

##### 2) 畑作物に関する試験

麦類畑作グループ（畑作）は豆類やてん菜などの畑作物の新品種育成や品種選定、栽培法改善試験、除草剤などの資材試験を実施している。

豆類では、「畑作物の地域適応性検定試験」により、大豆、小豆および菜豆における有望系統の地域適応性評価を進めている。大豆では、場内試験にて「十育280号」および十系系統17点（系統適応性検定試験）を供試した。小豆では、場内試験にて「十育187号」を供試した。菜豆では、場内試験にて「十育B87号」および「十育E14号」を供試した。

てん菜では、「てん菜輸入品種検定試験」として、民間育成の9系統について優決相当の生産力試験とそう根病抵抗性検定試験を実施し、抽苔耐性検定試験、斜里の現地試験ではそのうちの3系統について実施した。供試9系統のうち継続検討が6系統、廃棄が3系統である。

##### 3) ばれいしょに関する試験

馬鈴しょ牧草グループ（馬鈴しょ）は、でん粉原料用、加工用等の新品種育成を中心に、栽培試験や資材試験を実施している。

ばれいしょ新品種育成に関する試験は、「馬鈴しょ品種開発事業Ⅱ」において、安定多収な品種の育成を進めている。また、「ばれいしょの輸出を促進するジャガイモシストセンチュウ類低減・管理技術の開発」では、ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性を有するでん粉原料用品種の育成、「国内生産力の強化を図るための穀物等品種の開発」では、病虫害複合抵抗性を有するでん粉原料用品種の育成、ホクレンとの共同研究「トヨシロ」置き換えの馬鈴しょ品種開発強化」では、熟期の早い加工用品種育成の強化に取り組んでいる。

育種選抜効率の向上に関する試験は、「早期収穫適性が優れるでん粉原料用馬鈴しょ多収品種の開発促進」において、中期世代の9月上旬収穫による早期肥大性の評価、有望系統の栽培特性および主産地適応性を評価し、収量安定性の高い有望系統開発を強化している。「センチュウ類およびYウイルス抵抗性馬鈴しょ品種の開発強化と特性検定試験」では育成3年目の系統について、ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモYウイルス、ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性遺伝子を対象にしたDNAマーカーによる選抜を実施している。

育種選抜における品質の向上に関する試験は、「でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の選抜強化」、「長期貯蔵向けポテトチップ用馬鈴しょ系統の選抜強化」において、でん粉品質並びにチップ加工適性が優れる品種の開発促進を行っている。

育種選抜における耐病性の向上に関する試験は、「馬鈴しょそうか病抵抗性系統の開発促進」および「馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の選抜強化」において、前出の課題と合わせて耐病虫性（ジャガイモシストセンチュウ、ジャガイモシロシストセンチュウ、そうか病、疫病、Yウイルス病）に優れる品種の開発促進

進を進めているとともに、特性検定試験を実施している。

「優良品種決定調査」では、加工用3系統およびでん粉原料用1系統について検討した。加工用の「北育33号」、「北育34号」および「北育36号」は耐病性および加工適性が優れることから次年度も品種化に向けた試験を継続する。でん粉原料用の「北育35号」は、耐病性および収量性に優れることから次年度も品種化に向けた試験を継続する。「馬鈴しょ輸入品種等選定試験」では、民間育成3系統「CP19」、「HP08」及び「HP09」について生産力検定並びに病害虫抵抗性検定を行った。「CP19」は萌芽性が劣ることから試験中止とした。「HP08」および「HP09」については、耐病性や収量性が優れることから、次年度も品種化に向けた試験を継続する。

品種特性の解明に関する試験では、「生食用馬鈴しょ「ゆめいころ」の普及促進に向けた生育特性および食味の評価」において、実需者や消費者の品種選択や商品開発に向けた情報としての特徴を整理し、指導参考事項として成績をとりまとめた。また、「生食用馬鈴しょ「ゆめいころ」の普及促進に向けた生育特性および食味の評価」において「ゆめいころ」の農業特性と気象の関連解析を行い、訓子府町生産者に報告するとともに、冷蔵貯蔵品の食味評価を同生産者と実施した。

また、「ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性馬鈴しょ品種「ユーロビバ」の農業特性解明」では、「ユーロビバ」の基本的農業特性ならびにでん粉品質の調査を行った。

#### 4) 牧草・飼料作物に関する試験

馬鈴しょ牧草グループ（牧草）では、チモシー新品種育成試験を中心に、牧草・飼料作物の地域適応性評価、栽培試験および資材試験を実施している。

「チモシー品種開発事業Ⅱ」では、収量性、競合力、耐倒伏性、飼料成分、耐病性などの改良を目標として、チモシー有望系統の開発に取り組んでいる。また、ホクレンとの共同研究「飼料品質の向上に寄与するチモシー新品種の開発促進」および（一社）日本草地畜産種子協会との共同研究「道内の多様な環境に適応するチモシー品種の開発」では、早生

育成2系統「北見38号」「北見39号」について地域適応性検定試験および特性検定試験を開始した。また、「国内飼料生産力強化のための飼料作物品種の開発」では、初期生育性、耐暑性が既存品種より優れるチモシーの有望系統育成のための試験を行った。

民間受託試験「飼料作物品種比較試験」では、牧草4草種とサイレージ用とうもろこしの品種比較試験を実施した。

#### 5) 栽培環境に関する試験

生産技術グループ（栽培環境）は、土壌肥料（資材試験を含む）および環境保全に関する研究を実施している。本年度は、「リモートセンシングと圃場情報を活用した干湿害多発農地の診断手法の開発」（中央農試、十勝農試と共同）を「衛星リモートセンシングと地理情報を活用した畑地の排水不良域の推定法」として取りまとめ、北海道農業試験会議（成績会議）に提出し、令和7年指導参考事項に採択された。また、「気象変動に対応した高品質で安定生産可能な道産小麦の開発促進（第3期）2）（5）新しい選抜法を活用した収量性の選抜強化」（麦畑Gと共同）、「同3）（1）①春まき小麦における肥料価格変動に応じた適正施肥量の設定」（中央農試、上川農試と共同）、「畑作物に対する肥効調節型肥料の施用効果試験」（上川農試、十勝農試と共同）、「革新的技術導入による地域支援－北見地域における大豆狭畦栽培技術の現地実証－」が終了課題となった。なお、「春まき小麦における肥料価格変動に応じた適正施肥量の設定」と「畑作物に対する肥効調節型肥料の施用効果試験」は、令和7年度に成績提案を予定している。

継続課題として、「国内向けBNI強化小麦の開発の加速化」、「環境保全型有機質資源施用基準設定調査」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試と共同）、「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試と共同）、「農作物病害虫診断試験②生理障害診断試験」、「道営農業農村整備事業等に係る土壌調査」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、酪農試、花野菜セと共同）を実施した。

本年度から新たに実施した課題は、農業研究推進事業「肥料価格変動に応じた適正施肥

量設定に向けた初動研究」の継続課題として「肥料価格高騰と養分収支を考慮した直播てんさいとたまねぎに対する適正施肥量の確立」および「国内資源の肥料利用拡大に向けた調査委託事業（地力調査）」である。

単年度課題として、「オホーツク地域における客土材の土壌分析」を実施した。

## 6) 病害虫に関する試験

生産技術グループ（病虫）は、畑作物および園芸作物の病害虫防除対策試験、馬鈴しょのそうか病、塊茎腐敗およびジャガイモシストセンチュウの抵抗性評価、農作物病害虫診断試験、新農業資材実用化試験（新農薬効果査定試験）および病害虫発生予察事業を実施している。

本年度は、「テンサイ褐斑病抵抗性“かなり強”を超える系統に対する防除技術の開発」（中央農試、十勝農試と共同）を「テンサイ褐斑病抵抗性極強品種における褐斑病の省力防除法」として取りまとめ、北海道農業試験会議（成績会議）に提出し、令和7年指導参考事項に採択された。

継続課題として、「病害虫発生予察調査」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、花野菜セと共同）、「農作物病害虫生理障害診断・緊急対策試験」（中央農試、上川農試、道南農試、十勝農試、花野菜セと共同）、「馬鈴しょそうか病抵抗性系統の開発促進」（馬鈴しょ牧草Gと共同）、「馬鈴しょ疫病圃場抵抗性系統の選抜強化」（疫病菌の接種による実生個体選抜、塊茎腐敗抵抗性検定、馬鈴しょ牧草Gと共同）、「馬鈴しょ輸入品種等選定試験」（そうか病、塊茎腐敗およびジャガイモシストセンチュウ抵抗性検定、馬鈴しょ牧草G、中央農試、上川農試、十勝農試、北農研と共同）、「センチュウ類およびYウイルス抵抗性馬鈴しょ品種の開発強化と特性検定試験」（ジャガイモシストセンチュウ抵抗性検定、馬鈴しょ牧草G、中央農試と共同）、「ばれいしょの輸出を促進するジャガイモシストセンチュウ類低減・管理技術の開発 3. 捕獲作物および抵抗性作物を活用したPCN防除技術の開発」（北農研と共同）を実施した。

本年度から新たに実施した課題は、「ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性馬鈴しょ

品種「ユーロビバ」の農業特性の解明 2.

「ユーロビバ」の耐病虫性ならびに休眠性の評価」（そうか病、塊茎腐敗およびジャガイモシストセンチュウ抵抗性検定、馬鈴しょ牧草G、中央農試と共同）、「北海道の小豆におけるマメノメイガ緊急防除対策」（道南農試、中央農試と共同）である。

単年度試験として、「センキュウベと病の防除技術の確立」（十勝農試と共同）を実施した。

## 7) 地域支援活動

オホーツク地域農業支援会議では、技術普及室、網走農業改良普及センター、オホーツク総合振興局農務課とともに、事務局会議3回・臨時五者会議・五者会議（いずれも普及センター本所にて、対面開催）ならびに地域関係者会議（網走総合振興局でWeb開催と対面のハイブリット開催）を開催し、地域ニーズ（本年度ニーズ2課題、過年度ニーズ3課題）の現地の聞き取り調査や対応・ニーズ元への回答等を行った。

プロジェクト課題は、令和5年度から「大豆間作小麦栽培の対応」について取り組み、4月に越冬後調査と病害調査を行った。7月に収量調査を行い、ニーズ元に対し中間結果報告、1月に最終結果報告を行った。また、個別の地域要望や普及センターからの支援要請等については研究部各グループと技術普及室が連携して対応を行った。

## 2 技術普及室の活動

### 1) 専門項目に関する普及センターの支援

技術的な問い合わせなどへの対応の他、普及センターからの支援要請に基づいたテーマについて対応した。

耕種（水稻・畑作・園芸）については、稲作部会研修にかかる支援、畑作部会研修にかかる支援、園芸部会研修にかかる支援を行った。また、オホーツク管内有機農業ネットワークが開催する有機農業セミナーで、道総研の有機農業技術の成果について報告した。

畜産については、畜産部会研修にかかる支援（網走農業改良普及センターの地域課題解決研修として、搾乳ロボットにおける生菌数の調査方法及び乳質改善対策の手法）を他担

当普及室へ要請し、研修対応した。また、管内TMRセンター連絡会の構成メンバーとして、組織の活性化に貢献した。

植物保護については、ニンジンしみ症状発生実態調査、ばれいしょ夏疫病発生実態調査、ニンジン黄化病に対する効果的防除方法の確立、だいこんのヒメダイコンバエの防除に関する試験ほの設置方法と評価方法について(釧路中西部支所)、ハダニの同定および、調査方法への助言及び支援など関連する情報提供を行った。

土壤肥料については、畑作物における土壤診断に基づく肥培管理技術の確立、土壤物理性調査(三相分布測定)に係る調査機材の貸与と土壤断面調査方法についてを支援した。

人材育成については、採用3年目までの新任普及職員に対する研修支援を行った。

## 2) 調査研究の実施

調査研究は次の3課題である。

1つ目は、秋まき小麦の安定生産に向けた大豆間作の検討である。

オホーツク管内では大豆の面積が急増しており、合わせて大豆間作小麦栽培も増加している。支援会議プロジェクト課題と連携して、コムギ紅色雪腐病に対する種子消毒の効果確認、適正な種量の検討を目的として、令和5年秋に網走市1ほ場、津別町3ほ場の試験ほを設置した。

令和6年4月に紅色雪腐病の発病度調査、7月に収量調査を実施し、令和6年7月および令和7年1月に普及センターおよび協力農協の担当者に対し結果を伝達した。普及センターおよび農協担当者からは種子消毒の必要性和、実際は収量への影響が少ない事を認識した、との意見が聞かれた。

### 【結果の概要】

- ・紅色雪腐病の発病度；種子消毒あり<種子消毒なし
- ・収量；製品収量に差は認められなかった
- ・適正な種量；は種量1/2処理は収量・品質がやや劣った

令和6年秋に網走市1ほ場、津別町1ほ場に同様の試験ほを設置し、令和7年度も継続して取り組む。

2つ目は、「普及組織による法人化の支援手順について Part2」である。

### ○取り組み背景と内容

昨年度整理した「普及組織による法人化の支援手順(法人化支援フロー)」について、令和7年3月11日にオホーツク管内の全普及指導員(75名)に伝達した。

「法人化とは？」といった基礎知識の確認から、具体的なシミュレーションの仕方を中心とし、フローの中でも示された、法人設立の流れ(設立検討→定款作成→登記→農地の権利・移動設定→資産・負債の権利移動設定→税務署等への届出)に従って、普及組織として支援すべき内容とアウトソースすべき内容に区分して、具体的に説明した。

### ○取り組み成果

この時行ったアンケート調査結果(回答者60、回収率80%)から、オホーツク管内においては、法人化の設立に関わった経験のある普及職員は44%(ある22%、少しだけある22%)、支援内容としては「話し合いの連絡調整」が36%、「技術指導」と「経営指導」がそれぞれ29%であった。この他、「先進事例調査の情報提供」や「規約の作成支援」を行った例も見られた。

また、法人化を支援する際に困ったこととしては「意見の調整が難しい」と「求められる経営指導力が高い」が56%で最も多く、この他、「リスク管理マニュアル作成支援」や「自走への誘導」など、実際に法人設立を支援した経験者の意見も出された。

必要とされる支援策としては「経営シミュレーションの実施」が68%と最も多く、次いで「技術指導」42%、「話し合いの連絡調整」37%となった他、「各農家間の技術レベルの統一支援」、「関係機関による定期的なサポート体制づくり」、「構成員のチームワークを発揮させた事例紹介」、「リーダーへのサポート」などを必要とする意見が出された。

(※上記何れも複数回答可)

以上のことから、オホーツク管内では経験年数の浅い職員が多く、法人に関わる基礎知識や支援事例を紹介する必要がある一方で、法人設立など実際に関わった経験をもつ職員も一定数おり、そうした指導経験のある職員

に対しては、各種シミュレーションや法人内外における利害調整、技術レベルの高位平準化に関わる支援等が必要と思われた。

この結果は、今後、職場内研修や普及指導員向けの集合研修等に活かしたいと考える。

3つ目は、「ニンジンしみ症発生実態調査」である。

斜里町におけるにんじんは、特に9～10月収穫の作型で歩留まりが低下しやすく、その要因のひとつとしてしみ症状による品質低下が問題となっている。しかし現地での対策はしみ腐病（ピシウム）に対する防除が主であり、他の土壌病原菌によるしみ症状に対しては防除方法が不明な点が多い。北海道で確認されているにんじん根部にしみ症状を示す病害には、ピシウム属によるしみ腐病と、フザリウム属による黒しみ病がある。また、国内ではリゾクトニア属による根腐病、シリンドロカルポンによる褐色根腐病が報告されている。そのため、発生しているしみ症状の主要病原菌の作型ごとの特定を行い、試験場地域技術Gと普及センターと情報交換を行いながら、以下の事項について検討した。

#### ○作型ごとの主要病原菌の特定

斜里町のにんじんは7月下旬ごろから順次収穫されるため、7月下旬、8月中旬、8月下旬、9月中旬、10月上旬、10月下旬に分けて、選果場で規格外品と選別されたにんじんのうち、しみ症状のあるサンプルを選定して、試験場生産技術Gの協力のもと、菌の分離を試みた。

その結果、7月下旬～8月下旬までは病原性のある菌が分離されず、9月中旬～10月下旬の作型でピシウムが高率で分離された。また少ないが、10月上旬収穫の作型でフザリウムが一部分離された。

#### ○結果の考察

今回の実態調査では、特に9月以降に収穫される作型においてピシウム属によるしみ症状（しみ腐病）が多く見られた。しみ腐病は高温多湿で発病が増えるので、収穫期に雨が多い年は多発しやすい。過去文献（1993 棚橋）では、本病の発病には、収穫前（収穫前10日間）において、連続した降雨（土壌水分が高い条件）には発病が助長し、窒素吸収量

が多いほど発病が増加する傾向がみられた（1911 北嶋）ことから、排水対策の実施と土壌分析に応じた適正施肥が必要と考えられる。

#### ○今後の対策について

以上の結果について、農試生産技術Gと普及センターと情報共有し、耕種的防除の他、茎葉散布剤や粒剤の効果検証を継続して行っていく。

### 3）地域農業技術支援会議の活動

オホーツク地域農業支援会議では、技術普及室、網走農業改良普及センター、オホーツク総合振興局農務課とともに、事務局会議3回・臨時五者会議・五者会議（いずれも普及センター本所にて、対面開催）ならびに地域関係者会議（網走総合振興局でWeb開催と対面のハイブリット開催）を開催し、地域ニーズ（本年度ニーズ2課題、過年度ニーズ3課題）の現地の聞き取り調査や対応・ニーズ元への回答等を行った。

プロジェクト課題は、令和5年度から「大豆間作小麦栽培の対応」について取り組み、4月に越冬後調査と病害調査を行った。7月に収量調査を行い、ニーズ元に対し中間結果報告、1月に最終結果報告を行った。また、個別の地域要望や普及センターからの支援要請等については研究部各グループと技術普及室が連携して対応を行った。

### 4）農業試験場における普及指導員の研修実施

高度専門技術研修（植物保護）は6月上旬に、また高度専門技術研修（畑作）は9月上旬に、北見農試で開催した。

## IV 研究発表および普及事項

### 1 研究発表

#### 1) 研究論文

- 中川 浩輔・齋藤 優介・佐藤 仁・島田 尚典・奥山 昌隆. インゲンマメ新品種「秋晴れ」の育成. 北海道立総合研究機構農業試験場集報 109:1-13(2025).
- 池谷 聡. テンサイ新品種「カーベ8K860」の特性. 北海道立総合研究機構農業試験場集報 109:31-36 (2025).
- 森 万菜実. 北海道におけるリンゴ黒星病の防除開始時期と防除薬剤の検討. 北日本病害虫研究会報 75:50-54(2024).

#### 2) 口頭発表

- 大西志全. 第15回国際穂発芽シンポジウムの概要. 穂発芽研究会 (2024. 12. 10).
- 大西志全・堀川謙太郎・森田耕一・山口直矢・相馬ちひろ・佐藤優美・其田達也. 2DL染色体上のコムギ赤かび病抵抗性QTLにおける新規抵抗性アレルは日本在来品種に由来し「蘇麦3号」由来アレルより有用である. 日本育種学会第147回講演会 (2025. 3. 20-21).
- 木内 均・其田達也・阿出川さとみ・山口直矢・相馬ちひろ・大西志全. コムギ品種「きたほなみ」を遺伝背景としたコムギ縮萎縮病抵抗性遺伝子とポリフェノールオキシダーゼ高活性型遺伝子の連鎖解消系統の作出. 日本育種学会第147回講演会 (2025. 3. 20-21).
- 池谷 聡. G×Eを用いたテンサイ品種の収量安定性評価の試み. てん菜研究会第22回技術研究発表会 (2024. 7. 17).
- 高畠聡史. チモシーの幼苗冠部乾燥処理法による耐乾燥性の評価. 日本草地学会帯広大会第80回発表会 (2024. 9. 26-28)
- 飯田憲司. SNPデータを用いたチモシーの収量予測. 日本草地学会帯広大会第80回発表会 (2024. 9. 26-28)
- 和崎俊文・足利奈奈・品田博史・石川圭大. ジャガイモシロシスト抵抗性を持つ加害遺伝資源後代のでん粉品質の特徴. 日本育種学会・日本作物学会北海道談話会令和6年次講演会(オンライン開催, 2024. 12. 7).
- 石川圭大・品田博史. 「男爵薯」の中心空洞発生率と気象の関連解析. 日本育種学会・日本作物学会北海道談話会令和6年次講演会(オンライン開催, 2024. 12. 7).
- 佐藤圭・石川圭大・和崎俊文・品田博史・白澤健太・山口直矢. 道総研の育種ヒストリカルデータを用いたジャガイモ疫病抵抗性に関するGWASとQTNの有効性検証. 日本育種学会・第147回講演会(2025. 3. 20-21).
- 飯田憲司・高畠聡史・鈴木美玲・足利和紀. チモシーにおける初期生育性の間接選抜後代系統の生育特性. 日本草地学会宮崎大会第81回発表会 (2025. 3. 17-19)
- Hoque Md Imadatul・坂口俊太郎・高鳥将希・木下雅文・品田博史・山口直也・西村努・貴島祐治. 北海道の水稲品種に見られる出穂のオン後感受性変異は穂揃いや不時出穂に影響を及ぼす. 日本育種学会・第147回講演会(2025. 3. 20-21).
- 下間悠士. ナミハダニの重力と遠心力に対する応答. 第33回日本ダニ学会大会 (2024. 9).
- 下間悠士. 無防除水田群における移植時期の違いがイネドロオイムシの発生に及ぼす影響. 第28回農林害虫防除研究会北海道大会 (2024. 10).
- 下間悠士・佐藤三佳子. 醸造用ぶどうにおける果樹カメムシ類の吸汁が品質に及ぼす影響. 第78回北日本病害虫研究発表会 (2025. 2).
- 三和優吾・板垣英祐・杉川陽一・齋藤優介・竹之内悠・井田悠太・笛木伸彦. リン酸施肥量が春まき小麦の生育と収量ならびにリン収支に及ぼす影響. 日本土壌肥料学会2024年度福岡大会 (2024. 9).

- 三和優吾．リン酸施肥量が春まき小麦の干ばつ耐性に及ぼす影響．日本土壤肥料学会北海道支部2024年度秋季支部大会（2024.12）.
- 桑原萌・高橋尚大・板垣英祐・笛木伸彦・唐星児．生産現場における集積データを用いた土壌化学性および施肥実績とたまねぎ収量の関係解析．日本土壤肥料学会2024年度福岡大会（2024.9）.
- 桑原萌．紅色根腐病による根の損傷がタマネギの生育および収量に及ぼす影響．北海道園芸研究談話会2024年度研究発表会（2024.12）
- 板垣英祐・上野達・中本洋・中津智史．カボチャにおける生育時期別・部位別のヘプタクロルエポキシド濃度と吸収量．日本土壤肥料学会2024年度福岡大会（2024.9）.
- 森万菜実・東岱孝司・栢森美如．ジエトフェンカルブ・ベノミル混合剤によるテンサイ褐斑病の防除効果．令和7年度日本植物病理学会大会（2025.3）.
- 田中一生．北海道の酒米とお酒の特徴．日本作物学会第258回講演会小集会「作物学会と酒のかかわりを学ぶ会」（2024.9.25）.
- 田中一生・添島 均．北海道の水稻品種「きたゆきもち」の胴割粒発生に及ぼす登熟期間の高温処理時期と土壌水分条件の影響．日本水稻品質・食味研究会第16回講演会・シンポジウム(2024.11.79）.

### 3) 専門雑誌記事

- 平井 剛．多収性ナガイモ「とかち太郎」の育成とその活用．JATAFFジャーナル Vol.12 No.9:14-18(2024）.
- 大西志全．技術特集 秋まき小麦の夜明け．ニューカントリー9月号:20-22(2024）.
- 其田達也．秋まきコムギ新品種「北見95号」の育成．農業および園芸100巻第2号 124(2025）.
- 木内 均．コムギ縞萎縮病に強い 秋まき小麦新品種「きたほなみR」．ニューカントリー4月号 12-14(2025）.
- 村山真也．小麦新品種「北見99号」．北農第92巻2号 33(2025）.
- 池谷 聡．令和6年産てん菜の生産実績とその要因について．てん菜だより第13号（北海道農産協会）:2-5(2025）.
- 池谷 聡．北海道のテンサイ主力品種「カーベ2 K314」と「ライエン」について．農業および園芸 100（2）（養賢堂）:118-123（2025）.
- 飯田憲司．【新品種】チモシー「北見36号」 デーリイマン 9月号:69-70(2024）.
- 飯田憲司．チモシー新品種「ゆめみるひ（北見36号）」 グリーンテクノ情報第20巻4号.
- 桑原 萌．たまねぎをめぐる冒険 移植と直播の時流．ニューカントリー 843:14-17(2024）.
- 桑原 萌．改訂版「北海道の野菜づくり(たまねぎ)」．ニューカントリー 2024年秋季臨時増刊号:120-126(2024）.

### 4) 著編書、資料

- 品田博史．貯蔵後も「男爵薯」に近い味わいで芽が出にくい～ばれいしょ「ゆめいころ」の食味特性と貯蔵適性～．北海道馬鈴しょ協議会だより第27号

### 5) 新聞記事

- 木内 均．コムギ縞萎縮病に強い 秋まき小麦新品種「きたほなみR」．十勝毎日新聞「農業新技術・十勝農業記事ハイライト2025」.
- 池谷聡．テンサイ褐斑病 私たちの対策-育種、新規薬剤開発を．日本農業新聞（2025.1.14）
- 飯田憲司．チモシー新品種「北見36号」．農業共済新聞（2024.4.24）
- 品田博史．病害虫に強い！味もそっくり！後継種「ゆめいころ」登場．北海道新聞(2024.7.24）.

## 2 普及事項

### 1) 普及奨励事項

- (1) とうもろこし（サイレージ用）新品種「LG31295」
- (2) とうもろこし（サイレージ用）新品種「SL19017」

### 2) 普及推進事項

- (1) オーチャードグラス新品種「北海35号」

### 3) 指導参考事項

- (1) 生食用ばれいしょ「ゆめいころ」の食味特性および貯蔵適性
- (2) テンサイ褐斑病抵抗性極強品種における褐斑病の省力防除法
- (3) 衛星リモートセンシングと地理情報を活用した畑地の排水不良域の推定法
- (4) 北海道耕地土壌の理化学性と炭素貯留量の2023年までの推移
- (5) 除草剤
  - ①とうもろこし（飼料用）に対する除草剤「Hoe-866（バスタ液剤）」の実用化
- (6) 生育調節剤
  - ①ばれいしょに対する生育調節剤「HSW-2101」乳剤の茎葉枯凋促進処理の実用化
- (7) 殺虫・殺菌剤
  - ①たまねぎの小菌核病に対するテブコナゾール・トリフロキシストロビン水和剤F（未登録）の効果
  - ②だいこんのキタネグサレセンチュウに対するイミシアホス粒剤（施用量変更）の効果
  - ③だいこんのキタネグサレセンチュウに対するフルオピラム水和剤Fの効果

### 4) 研究参考事項

なし

## 3 品種登録・特許申請

コムギ種「きたほなみR」、其田達也、林和希、木内均、佐藤優美、斉藤涼介、村山真也、大西志全、荒木和哉、足利奈奈、森田耕一、神野裕信、粕谷雅志、来嶋正朋、吉村康弘、山名三佳子、鈴木孝子、鈴木千賀、山下陽子、道満剛平、菅原彰、竹内薫、東岱孝司、千田圭一、井上哲也、佐藤圭、堀川謙太郎、相馬ちひろー出願日2024/3/18、出願番号ー37354

## V 研究企画・場運営・広報活動

### 1 諸会議

| 会 議 名       | 開催時期           | 場 所                  | 参 加 者                      |
|-------------|----------------|----------------------|----------------------------|
| 定例庁内会議      | R 6. 4. 17     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 5. 13     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 6. 5      | 農試講堂                 | 場員                         |
| 新規課題場内検討会   | R 6. 6. 19     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 7. 11     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 8. 7      | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 9. 11     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 10. 2     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 11. 12    | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 6. 12. 12    | 農試講堂                 | 場員                         |
| 現地委託試験成績検討会 | R 6. 11. 29    | 訓子府町公民館<br>講堂(web併用) | 場員、普及センター、関係<br>農試、関係農業団体  |
| 成績会議場内検討会   | R 6. 12. 6     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 7. 1. 8      | 農試講堂                 | 場員                         |
| 設計会議場内検討会   | R 7. 2. 10, 12 | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 7. 2. 6      | 農試講堂                 | 場員                         |
| 定例庁内会議      | R 7. 3. 13     | 農試講堂                 | 場員                         |
| 現地委託試験設計検討会 | R 7. 3. 18     | ウェブ開催・<br>農試講堂(場員)   | 場員、普及センター、関係<br>農試、関係農業団体等 |

### 2 各種委員会

#### 1) ほ場管理・施設等整備委員会

##### (1) 構成

委員長：平井剛

事務局長：鳥越昌隆(ほ場管理)、古屋幸生(施設等整備)

委員：其田達也、池谷聡、伊藤幸雄、品田博史、飯田憲司、板垣英祐、小倉玲奈、  
田中一生、門なつみ

##### (2) 活動内容

##### ① 委員会の開催

第1回：令和6年4月26日

- 1) 場内持ち込みサンプルについて
- 2) ジャガイモシストセンチュウの場内土壌検診
- 3) 防風林整備関係
- 4) 暗渠の底さらいについて

その他) 施設整備の要求について他

第2回：令和6年7月11日

- 1) 場内持ち込みサンプルについて
- 2) 第4期中期計画施設整備計画
- 3) 対空標識座標について

第3回：令和6年12月24日

- 1) 令和7年度試験研究用備品要望に係る順位付けについて
- 2) 共通経費執行残による備品整備について

第4回：令和7年3月13日

- 1) 令和7年度以降の固定費の取り扱いについて

## 2) 業務委員会

### (1) 構成

委員長：鳥越昌隆

委員：木内均、中川浩輔、伊藤幸雄、和崎俊文、高畠聡史、桑原萌、森万菜実

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和6年4月11日

- 1) 業務委員会体制
- 2) 業務委員会開催要領
- 3) 麦類畑作G（管理）業務体制
- 4) 室外契約職員体制
- 5) 室外契約職員のけが等の災害対応
- 6) 週間作業予定
- 7) 月間作業予定
- 8) 室外契約職員作業日誌対応
- 9) 機械契約職員対応
- 10) 勤務時間外における作業の休止、一時的な休息について
- 11) 作付計画
- 12) 雑草防除
- 13) 堆肥散布
- 14) 今月の予定

#### ② 定例委員会：4月18日から10月31日まで原則として毎週木曜日に開催した。

- 1) 機械作業など週間作業計画および貨物車両使用計画
- 2) 室外契約職員週間作業計画

## 3) 図書・広報委員会

### (1) 構成

委員長：宗形信也

委員：井上顕伸、林和希、鈴木美玲、三和優吾（図書連絡委員兼務）

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会：令和6年5月30日

- 1) 図書連絡委員の選任
- 2) 令和6年度定期刊行物購入計画の確認
- 3) 今年度業務内容の確認
- 4) その他（資料保管庫の割り当て、道総研OPACの運用開始）

#### ② 第2回委員会：令和7年2月6日

- 1) 令和7年度定期刊行物購入計画の策定
- 2) 新庁舎図書引越について

#### ③ 新着図書の案内、刊行物の配布、蔵書調査に対する回答等は随時実施

#### 4) システム委員会

##### (1) 構成

委員長：唐星児

委員：村山真也、和崎俊文、下間悠士、門なつみ

##### (2) 活動内容

###### ① 第1回委員会：令和6年5月20日

1) 情報システム管理者の選任

2) 北見農試内システム関係の業務分担

3) 道総研ホームページ更新操作マニュアルについて

2) 今後の委員会の開催について

###### ② 第2回委員会：令和6年8月15日

1) 北見農試共有フォルダの空き容量が少ないことへの対応

#### 5) バイテク共同実験室利用委員会

##### (1) 構成

委員長：宗形信也

委員：鳥越昌隆、小倉玲奈、門なつみ、宗形信也（兼任）

##### (2) 活動内容

###### ① 第1回委員会：令和6年5月28日

1) 本年度の委員確認

2) 令和5年度報告

3) 令和6年度活動計画

4) その他

###### ② 第2回委員会：令和7年2月28日

1) 不要品の処分について

#### 6) 定期作況報告委員会

##### (1) 構成

委員長：平井剛

事務局長：大西志全

気象担当：大西志全

とりまとめ：石川圭大

委員：木内均、齋藤涼介、池谷聡、中川浩輔、石川圭大、高島聡史、鈴木美玲

##### (2) 活動内容

###### ① 第1回委員会：令和6年4月9日

1) 定期作況調査報告実施体制

2) 年間日程

3) 報告様式

4) 作況の判定基準設定

5) 作況調査報告実施要領の確認、北見農試定期作況における気象経過

6) テンサイの供試品種の変更

## 7) 公開デー実行委員会

### (1) 構成

委員長：平井剛

事務局：古屋幸生、宗形信也

委員：木内均、池谷聡、柴田匠、佐藤圭、鈴木美玲、木場稔信、小澤徹、田中一生、  
門なつみ

### (2) 活動内容

#### ① 第1回委員会:令和6年6月7日

C00P「食べる・たいせつフェスティバル2024」への出展内容について論議。①出展内容については、簡易に実施できる「ヨウ素でん粉反応」の体験を行う。②対応者については、別途事務局から委員を中心に相談した上で決定。

#### ② 第2回委員会:令和7年2月27日

公開デー中止（令和5年～7年）に係る令和7年代替PRについて協議。①C00P「食べる・たいせつフェスティバル2025」へ出展②出展内容等については小麦関係を中心に次年度実行委員会で協議。

## 8) オホーツク農業新技術セミナー実行委員会

### (1) 構成

委員長：唐星児

事務局：古屋幸生、大西志全、鳥越昌隆、宗形信也

実行委員：林和希、池谷聡、品田博史、田中一生、壽永七月男

### (2) 活動内容

#### ① 第1回実行委員会：令和6年11月6日

1) 実行委員会体制確認、開催概要決定、準備内容確認

#### ② 第2回実行委員会：令和7年1月17日

1) セミナー開催概要、実行委員会の体制確認、準備経過報告

2) 準備の責任者・担当者決定、作業内容・スケジュール確認

3) 口頭発表・ポスター発表課題の検討

4) 当日プログラムの検討

## 9) 安全衛生委員会

### (1) 構成

委員：梶山努、平井剛、古屋幸生、壽永七月男、鳥越昌隆、林和希、森万菜実、  
大西志全、唐星児、荒川雅美

オブザーバー：中村浩、宗形信也、門なつみ

### (2) 活動内容

令和6年 4月17日：組織体制検討

令和6年 5月13日：職場巡回（麦類畑作G（畑作））

令和6年 6月 5日：意見交換（業務車事故について）

令和6年 7月11日：職場巡回（麦類畑作G（麦類））

令和6年 8月 7日：意見交換（夏の農作業安全について）

令和6年 9月11日：職場巡回（生産技術G）  
 令和6年10月 2日：意見交換（秋の農作業安全について）  
 令和6年11月12日：職場巡回（馬鈴しょ牧草G）  
 令和6年12月12日：意見交換（業務車事故について）  
 令和7年 1月 8日：職場巡回（総務課）  
 令和7年 2月 6日：意見交換（春作業で留意すべきこと）  
 令和7年 3月13日：総括

### 3 刊行印刷物

| 印 刷 物 名          | 発行年月  | 頁  | 部数 |
|------------------|-------|----|----|
| 飼料作物の育種に関する試験成績書 | R7. 3 | 57 | 30 |

### 1 広報活動

#### 1) シンポジウム・セミナー等

| 名 称            | 開催日       | 場 所     | 内 容                   | 参加者  |
|----------------|-----------|---------|-----------------------|------|
| オホーツク農業新技術セミナー | R7. 2. 27 | 訓子府町公民館 | 講演8題、パネル展示13枚の展示が行われた | 147名 |

#### 2) マスコミ、広報誌等による報道

| タ イ ト ル            | 報 道 機 関           | 掲載・放送日   |
|--------------------|-------------------|----------|
| 「きたほなみ」後継種を紹介<br>表 | 北見農試など研究成果発 北海道新聞 | R7. 3. 4 |

#### 3) 展示会等への出展、公開デー

##### (1) 北見農試公開デー2024

庁舎改築準備のため開催を休止した。

##### (2) COOP「食べる・たいせつフェスティバル2024」出展

北見農試公開デー2024休止の代替として、9月28日（土）開催の同フェスティバルに出展した。

会場：サンドーム北見&サンライフ北見

展示：「ヨウ素でん粉反応」の実験体験およびばれいしょ「ゆめいころ」関係のパネルお土産等によるPR

## 5 見学受入れ

| 年月日    | 団 体 名                 | 人 数 |
|--------|-----------------------|-----|
| 6月5日   | 東京農業大学                | 5   |
| 6月5日   | ニッポン                  | 4   |
| 6月17日  | オホーツク網走第27集団          | 15  |
| 6月17日  | 農業改良普及センター園芸部会        | 5   |
| 6月19日  | JA土幌町                 | 13  |
| 6月20日  | グレインカンパニー             | 2   |
| 6月21日  | 青年ゼミナール（網走農業改良普及センター） | 25  |
| 6月24日  | 北海道農産協会               | 7   |
| 6月24日  | ホクレン中斜里製糖工場           | 8   |
| 6月25日  | JAきたそらち               | 10  |
| 6月26日  | 敷島製パン                 | 3   |
| 6月26日  | 訓子府中学校                | 15  |
| 6月27日  | 北海道製粉工業協同組合           | 5   |
| 6月28日  | JAきたみらい南地区玉葱振興会青年部    | 32  |
| 7月4日   | 常呂町生産者                | 10  |
| 7月4日   | JAきたみらいてんさい振興会        | 20  |
| 7月5日   | 本別農協種子生産部会            | 8   |
| 7月5日   | 北海道畑作研究懇話会            | 30  |
| 7月9日   | 長野県農業試験場              | 4   |
| 7月9日   | 北見市第9・10民生児童委員協議会     | 14  |
| 7月10日  | 美幌町馬鈴薯採種組合            | 15  |
| 7月10日  | JAしれとこ斜里越川富士宮農集団      | 20  |
| 7月12日  | JA中札内村馬鈴薯事業部会         | 9   |
| 7月17日  | JAたきかわ玉葱部会            | 6   |
| 7月23日  | 居武士小学校                | 3   |
| 7月24日  | 農林水産省北海道農政事務所         | 4   |
| 7月26日  | (有)葵フーズ               | 1   |
| 8月2日   | 日本甜菜製糖美幌製糖所           | 16  |
| 8月20日  | 訓子府町農業委員会（高知県立春野高校）   | 4   |
| 9月10日  | デリア食品(株)              | 22  |
| 12月5日  | JA清里                  | 13  |
| 12月10日 | 清里農民連盟                | 20  |
| 1月15日  | JAふらの 富良野玉葱振興会        | 16  |
| 3月25日  | 横山製粉                  | 6   |

## VI 技術指導および研修

### 1 研修生の受入れ

| 研 修 項 目                        | 団 体・人 数                                        | 研修期間          | 対応グループ                    |
|--------------------------------|------------------------------------------------|---------------|---------------------------|
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・植物保護） | 石狩農業改良普及センター本所（1名）、網走農業改良普及センター本所（1名）          | R6. 6. 3～6. 7 | 技術普及室、生産技術G               |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・畑作）   | 空知農業改良普及センター空知南東部支所（1名）、十勝農業改良普及センター十勝西部支所（1名） | R6. 9. 3～9. 5 | 技術普及室、麦類畑作G、馬鈴しょ牧草G、生産技術G |

### 2 講師派遣

| 研修会および講習会                              | 主 催 者   | 開催日              | 演 題                        | 派遣者   |
|----------------------------------------|---------|------------------|----------------------------|-------|
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（新任者研修Ⅰ）            | 北海道農政部  | R6. 5. 21        | 畑作の基礎技術                    | 中村 浩  |
| 北見商業高校3年生出前授業                          | 北見商業高校  | R6. 6. 12        | 北海道の小麦、オホーツクの小麦について        | 大西志全  |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・畑作・前期）        | 北海道農政部  | R6. 6. 13<br>～14 | 研修生事例に基づく研究検討              | 中村 浩  |
| 令和6年度普及指導力養成研修（高度専門研修・植物保護・前期）         | 北海道農政部  | R6. 6. 2～7       | 病害虫診断に係る高度な診断・同定手法の習得      | 飯田 麻衣 |
| 農業経営者育成研修・農業経営分析コース1期                  | 農業大学校   | R6. 6. 4         | 経営分析の基礎                    | 添島 均  |
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（スペシャリスト強化研修・畑作・前期） | 北海道農政部  | R6. 6. 26<br>～27 | 畑作の現状と課題、研修生事例に基づく研究検討     | 中村 浩  |
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（スペシャリスト強化研修・畑作・前期） | 北海道農政部  | R6. 6. 27        | 馬鈴薯の品種特性と育種の方<br>向性及び試験の概要 | 品田博史  |
| 札幌ベルエポック製菓調理専門学校授業                     | 北海道農政部  | R6. 7. 4         | 小麦粉の種類と小麦の品種について           | 大西志全  |
| J Aたいせつ中長期的な酒                          | J Aたいせつ | R6. 8. 9         | 胴割粒の発生要因と対策・               | 田中一生  |

|                                      |               |                       |                                                   |                |
|--------------------------------------|---------------|-----------------------|---------------------------------------------------|----------------|
| 造好適米生産に向けた研修会                        |               |                       | 低タンパク酒米生産技術                                       |                |
| 稲作経営専攻コース2学年・第1期集中講座                 | 農業大学校         | R6. 8. 16             | 営農Naviを利用した経営計画                                   | 添島 均           |
| 令和6年度普及指導員養成研修（高度専門研修・植物保護・後期）       | 北海道農政部        | R6. 8. 19～22          | 農薬（殺菌・殺虫剤）に係る試験手法及び効果判定の習得                        | 飯田 麻衣<br>飯田 麻衣 |
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（新任者研修Ⅱ・後期）       | 北海道農政部        | R6. 9. 2～4            | 農業簿記の基礎                                           | 添島 均           |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・畑作・中期）      | 北海道農政部        | R6. 9. 3～5            | オホーツク農業の現状と課題、北見農試における試験研究                        | 中村 浩           |
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（新任者研修Ⅱ・後期）       | 北海道農政部        | R6. 9. 4              | 害虫の診断手法                                           | 下間悠士           |
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（新任者研修Ⅱ・後期）       | 北海道農政部        | R6. 9. 4～6            | 病害・害虫の診断手法                                        | 飯田 麻衣          |
| 令和6年度北糖地区甜菜振興対策協議会 農協甜菜担当者会議         | 北糖地区甜菜振興対策協議会 | R6. 9. 6              | 地域農業に対するてん菜の重要性                                   | 池谷 聡           |
| 令和6年度拓殖大学北海道短期大学「日本酒学」の講義            | 拓殖大学北海道短期大学   | R6. 10. 1             | 品種改良とは～新たなる酒米育種への挑戦～                              | 田中一生           |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・経営労働）       | 北海道農政部        | R6. 10. 8<br>-10. 10  | 経営改善提案モデルの作成・発表<br>農業経営と簿記指導について<br>経営計画の策定手法について | 添島 均           |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（高度専門研修・畑作・後期）      | 北海道農政部        | R6. 10. 16<br>～18     | 北海道の畑作をめぐる情勢                                      | 中村 浩           |
| 令和6年度普及指導員指導力養成研修（スペシャリスト強化研修・経営・労働） | 北海道農政部        | R6. 10. 29<br>-10. 31 | 農業簿記の基礎                                           | 添島 均           |

|                                      |                          |              |                             |                                           |
|--------------------------------------|--------------------------|--------------|-----------------------------|-------------------------------------------|
| 令和6年度普及指導員新任者早期養成研修（スペシャリスト研修・畑作・後期） | 北海道農政部                   | R6. 11. 20   | 研修生事例に基づく研究検討               | 中村 浩                                      |
| てん菜栽培技術講習会（相内地区）                     | きたみらいてん菜振興会              | R6. 11. 25   | 地域農業に対するてん菜の重要性             | 池谷 聡                                      |
| てん菜栽培技術講習会（留辺蘂地区、温根湯地区）              | きたみらいてん菜振興会              | R6. 11. 25   | 地域農業に対するてん菜の重要性             | 池谷 聡                                      |
| てん菜栽培技術講習会（訓子府地区、置戸地区）               | きたみらいてん菜振興会              | R6. 11. 26   | 地域農業に対するてん菜の重要性             | 池谷 聡                                      |
| 農業経営者育成研修・農業経営分析コース2期                | 農業大学校                    | R5. 11. 28   | 経営計画（水平比較）                  | 添島 均                                      |
| てん菜栽培技術講習会（北見地区、上常呂地区、端野地区）          | きたみらいてん菜振興会              | R6. 12. 5    | 地域農業に対するてん菜の重要性             | 池谷 聡                                      |
| 肥料がたまねぎ紅色根腐病に及ぼす影響についての意見交換会         | 片倉コープアグリ                 | R6. 12. 24   | 肥料がたまねぎ紅色根腐病に及ぼす影響について      | 桑原萌                                       |
| 道南4地区てん菜作り研修会                        | 道南地区てん菜振興協議会<br>北海道糖業(株) | R7. 1. 9     | てん菜栽培技術対策及び畑作輪作体系の重要性       | 池谷聡                                       |
| 農業経営者育成研修・農業経営分析コース3期                | 農業大学校                    | R6. 1. 23    | 経営計画（経営計画の発表）               | 添島 均                                      |
| 第31回馬鈴しょ及びでん粉講習会                     | 北海道農産基金協会・ホクレン           | R7. 1. 23～24 | でん粉原料用馬鈴しょにおける高品質でん粉系統の選抜強化 | 和崎俊文                                      |
| 令和6年度高品質てん菜づくり講習会                    | 道南地区てん菜振興協議会             | R7. 1. 29    | 令和6年産てん菜の生育経過と今後の留意事項       | 池谷 聡                                      |
| 令和6年度オホーツク管内普及指導員普及奨励新技術研修会          | オホーツク総合振興局               | R7. 2. 4     |                             | 木内均<br>飯田憲司<br>唐星児<br>板垣英祐<br>森万菜実<br>中村浩 |
| 令和6年度豆作り講習会                          | 日本豆類協会                   | R7. 2. 13    | 豆類の新品種と品種特性                 | 中川浩輔                                      |

|                        |               |                          |                                             |                      |
|------------------------|---------------|--------------------------|---------------------------------------------|----------------------|
| 令和6年度豆作り講習会            | 日本豆類協会        | R7. 2. 13                | オホーツク地方において問題となる害虫とその対策                     | 下間悠士                 |
| 女満別町採種小麦生産組合<br>研修会    | 女満別町農業協同組合    | R7. 2. 17                | きたほなみRの品種特性、栽培特性について                        | 其田達也                 |
| 網走農業改良普及センター<br>園芸部会研修 | 網走農業改良普及センター  | R7. 2. 17                | たまねぎのリン酸・加里減肥試験について                         | 桑原萌                  |
| 畑作営農技術研修会              | オホーツク網走農業協同組合 | R7. 2. 20                | でん粉原料用ばれいしょ「コナヒメ」の安定栽培法                     | 唐星児                  |
| 豆・麦類種子栽培技術研修会          | 十勝農業協同組合連合会   | R7. 2. 25                | きたほなみRの品種特性と栽培方法                            | 其田達也                 |
| 令和6年度良質小麦安定生産技術講習会     | 一般社団法人北海道農産協会 | R7. 2. 27                | 令和7年度に注意を要する病害虫 ～赤さび病を中心に～                  | 小倉玲奈                 |
| 良質小麦安定生産技術講習会          | 北見地区米麦改良協会    | R6. 2. 27                | 北見99号について<br>本年注意すべき病害虫について<br>良質小麦安定生産に向けて | 其田達也<br>小倉玲奈<br>中村 浩 |
| 令和6年度高品質てん菜づくり講習会      | 北海道農産協会       | web公開<br>R7. 3. 10-4. 30 | 令和6年産てん菜の生育経過と今後の留意事項                       | 池谷 聡                 |
| 令和6年度良質米安定生産技術講習会      | 北見地区米麦改良協会    | R7. 3. 12                | 胴割粒の発生要因とその対策・他～「きたゆきもち」の高品質安定生産に向けて～       | 田中一生                 |
| JAオホーツク網走豆類講習会         | オホーツク網走農業協同組合 | R7. 3. 14                | 豆類の新品種と品種特性                                 | 中川浩輔                 |

### 3 職員研修

| 氏 名   | 研 修 項 目        | 場 所           | 期 間                              |
|-------|----------------|---------------|----------------------------------|
| 鈴木美玲  | 新任職員研修         | 道総研プラザ        | R6. 4. 9～R6. 4. 11               |
| 荒川雅美  | 新任主任級研修        | オホーツク総合振興局    | R6. 5. 9～R6. 5. 10               |
| 唐星児   | 新任主幹級研修        | オンライン開催       | R6. 5. 14～R6. 5. 15、<br>R6. 6. 3 |
| 壽永七月男 | 新任係長級研修        | 網走北コミュニティセンター | R6. 5. 23～R6. 5. 24              |
| 飯田麻衣  | 新任係長級研修        | 網走市           | R6. 5. 23～24                     |
| 古屋幸生  | 刈払機取扱作業従事者安全講習 | オンライン開催       | R6. 6. 1～R6. 6. 20               |
| 鈴木美玲  | 刈払機取扱作業従事者安全講習 | オンライン開催       | R6. 6. 1～R6. 6. 20               |

|      |                                 |                  |                                        |
|------|---------------------------------|------------------|----------------------------------------|
| 大和耕治 | 刈払機取扱作業従事者安全講習                  | オンライン開催          | R6. 6. 1～R6. 6. 20                     |
| 中村 浩 | 新任課長級研修                         | 札幌市              | R6. 6. 5～6                             |
| 鈴木美玲 | 新規採用職員研修（研修B・重要課題研修）            | オンライン開催          | R6. 7. 12～ 全4回                         |
| 鳥越昌隆 | てん菜研究会第22回技術研究発表会 <sup>1)</sup> | 札幌市              | R6. 7. 16～R6. 7. 18                    |
| 池谷聡  | てん菜研究会第22回技術研究発表会 <sup>1)</sup> | 札幌市              | R6. 7. 16～R6. 7. 18                    |
| 飯田麻衣 | 新任革新支援専門員研修                     | オンライン開催          | R6. 8. 27～28                           |
| 高畠聡史 | 令和6年度研究課題立案研修                   | オンライン            | R6. 8. 28～R6. 8. 29                    |
| 鈴木美玲 | 新規採用職員研修C（他分野体験・交流研修）           | 森林研究本部およびオンライン開催 | R7. 10. 8～R7. 10. 10<br>R7. 1. 17（web） |
| 齋藤涼介 | 農林交流センターワークショップ <sup>1)</sup>   | つくば市             | R6. 10. 15～R6. 10. 19                  |
| 飯田麻衣 | 植物防疫中央研修                        | 横浜市              | R6. 12. 17～20                          |
| 古屋幸生 | ハラスメント相談員研修                     | オンライン開催          | R6. 10. 30                             |
| 森万菜実 | ハラスメント相談員研修                     | オンライン開催          | R6. 10. 30                             |
| 伊藤幸雄 | テールゲートリフト特別教育                   | (有)北友商会研修部       | R6. 11. 22                             |
| 横川愁斗 | テールゲートリフト特別教育                   | (有)北友商会研修部       | R6. 11. 22                             |
| 石川圭大 | 北海道気候変動影響研究シンポジウム <sup>1)</sup> | 札幌市              | R6. 12. 19～R6. 12. 21                  |
| 柴田匠  | 丸のこ等取扱作業従事者教育                   | オンライン開催          | R6. 12. 25～R7. 1. 25                   |
| 横川愁斗 | ガス溶接技能講習                        | 北海道溶接協会北見支部      | R7. 2. 17～R7. 2. 18                    |
| 柴田匠  | ガス溶接技能講習                        | 北海道溶接協会北見支部      | R7. 2. 17～R7. 2. 18                    |
| 飯田憲司 | 日本草地学会第81回発表会 <sup>1)</sup>     | 宮崎市              | R7. 3. 17～R7. 3. 19                    |
| 佐藤 圭 | 日本育種学会第137講演会 <sup>1)</sup>     | 仙台市              | R7. 3. 20～R7. 3. 21                    |

1) 専門研修Ⅱ

#### 4 職場研修

| 研修会および講習会      | 講 師       | 開 催 日     |
|----------------|-----------|-----------|
| 交通安全について       | 総務課長 古屋幸生 | R6. 5. 31 |
| 安全で快適な作業のために   | 研究主幹 鳥越昌隆 | 〃         |
| 病虫害汚染防止について    | 研究部長 平井 剛 | 〃         |
| 規則を守った研究活動について | 研究部長 平井 剛 | 〃         |
| ハラスメントについて     | 総務課長 古屋幸生 | 〃         |
| 一般事業主行動計画について  | 総務課長 古屋幸生 | 〃         |

#### 5 国際交流

| 交流事業名 | 派遣内容 | 派遣職員 | 期 間 |
|-------|------|------|-----|
| 該当無し  |      |      |     |

## **Ⅶ そ の 他**

### **1 技術体系化チーム**

技術体系化チームとしての取り組みはなかった。

### **2 オホーツク地域農業支援会議プロジェクトチーム（技術普及室・研究部）**

オホーツク地域農業支援会議のプロジェクト課題として「大豆間作小麦栽培の対応」について取り組み、越冬後生育・病害調査、収量調査を行い、ニーズ元（JAつべつ、JAオホーツク網走）へ中間報告と最終結果報告を行った。

オホーツク管内の各関係機関より令和6年度地域課題・農業試験研究課題ニーズとして2件の要望があった。要望の具体的内容把握のため、それぞれ現地聞き取り調査を実施した。

現地聞き取り調査： 12/3 JAしれとこ斜里

### **3 表彰・受賞**

（1）日本土壌肥料学会2024年度福岡大会 若手口頭発表優秀賞（令和6年10月11日）

第6部門（土壌肥沃度）：「リン酸施肥量が春まき小麦の生育と収量ならびにリン収支に及ぼす影響」  
三和優吾・板垣英祐・杉川陽一・齋藤優介・竹之内悠・井田悠太・笛木伸彦

（2）令和6年度農業研究本部長表彰（令和7年3月11日）

「北海道で発生したコムギなまぐさ黒穂病の防除技術開発チーム」  
小澤徹・森万菜実・新村昭憲・小松勉・相馬潤

## 4 行事

| 月   | 日     | 行                                  | 事 | 名 | 月   | 日      | 行                                      | 事 | 名 |
|-----|-------|------------------------------------|---|---|-----|--------|----------------------------------------|---|---|
| 4月  | 1日    | 辞令交付式(新規採用)                        |   |   | 11月 | 5日     | 第4回農研本部場長会議                            |   |   |
|     | 16日   | (Web開催)第1回安全管理者会議                  |   |   |     | 12日    | 防火訓練                                   |   |   |
|     | 19日   | 第1回道総研本部長場長会議                      |   |   |     | 20日    | 道産小麦品質向上プロジェクト試験成績<br>検討会              |   |   |
|     | 23日   | オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警<br>戒本部第1回幹事会    |   |   |     | 21日    | (Web開催)第7回安全管理者会議                      |   |   |
| 5月  | 9日    | 第1回農研本部場長会議                        |   |   |     | 21日    | 馬鈴しょ輸入品種等選定試験及び育成系<br>統連絡試験成績検討会       |   |   |
|     | 23日   | (Web開催)第2回安全管理者会議                  |   |   |     | 22日    | てん菜輸入品種検定試験等受託試験及び<br>育成系統連絡試験成績検討会    |   |   |
|     | 28日   | (Web開催)第2回運営推進会議                   |   |   |     | 25日    | 第3回訓子府町温暖化協議会                          |   |   |
|     | 31日   | 職場研修(ほ場汚染防止・労働安全等)                 |   |   |     | 26日    | (Web開催)第7回運営推進会議                       |   |   |
| 6月  | 4日    | (Web開催)第1回研究部長会議                   |   |   |     | 29日    | 北見農試現地委託試験成績検討会(Web<br>併用)             |   |   |
|     | 7日    | 北海道農業技術推進委員会<br>第2回農研本部場長会議        |   |   |     | 12月    | 3-4日 飼料作物品種比較試験成績検討会                   |   |   |
|     | 14日   | 場内見学案内リハーサル                        |   |   |     |        | 9日 訓子府町プランディング支援事業審査会<br>場内成績検討会議      |   |   |
|     | 19日   | 場内新規課題検討会議                         |   |   |     |        | 17日 (Web開催)第2回研究部長会議                   |   |   |
|     | 20日   | (Web開催)第3回安全管理者会議                  |   |   |     | 14日    | 北見工大社会連携推進センター産学官連<br>携推進員・協力員合同会議(欠席) |   |   |
|     | 25日   | (Web開催)第3回運営推進会議                   |   |   |     | 1月     | 9日 訓子府町農業関連事業所懇談会                      |   |   |
|     | 27日   | (Web開催)全国農業関係場所長会議                 |   |   |     |        | 10日 訓子府町新年交礼会                          |   |   |
| 7月  | 1-5日  | 新規課題検討会議                           |   |   |     |        | 16日 (Web開催)第5回農研本部場長会議                 |   |   |
|     | 9-10日 | 新規課題検討会議(畜産部会)                     |   |   |     |        | 20-24日 (Web併用)北海道農業試験会議成績会議            |   |   |
|     | 2日    | 第14回訓子府まちづくり推進会議                   |   |   |     |        | 28日 (Web開催)第9回運営推進会議                   |   |   |
|     | 16日   | オホーツク地域農業技術支援会議・臨時<br>五者会議         |   |   | 2月  | 10日    | 場内設計検討会議(麦類、畑作)                        |   |   |
|     | 18日   | (Web開催)第1回安全管理者会議                  |   |   |     | 12日    | 場内設計検討会議(馬牧G、生技G)                      |   |   |
|     | 23日   | (Web開催)第4回運営推進会議                   |   |   |     | 17-28日 | 地域農業技術センター連絡会議(NATEC)<br>定期総会(書面)      |   |   |
|     | 30日   | (Web開催)第1回オホーツク地域農業気象<br>連絡協議会(欠席) |   |   |     | 13日    | オホーツク地域農業技術支援会議・五者<br>会議               |   |   |
| 8月  | 30日   | 北海道農業試験会議(秋まき小麦設計会<br>議)           |   |   |     | 20日    | 農業新技術発表会(全道版)                          |   |   |
| 9月  | 19日   | (Web開催)第5回安全管理者会議                  |   |   |     | 21日    | (Web開催)設計会議 てん菜分科会                     |   |   |
|     | 24日   | 第1回訓子府町温暖化協議会                      |   |   |     | 25日    | 第16回訓子府まちづくり推進会議                       |   |   |
|     | 25日   | (Web開催)第5回運営推進会議                   |   |   |     | 26日    | (Web開催)第10回運営推進会議                      |   |   |
|     | 26日   | (Web開催)第3回農研本部場長会議                 |   |   |     | 27日    | オホーツク農業新技術セミナー                         |   |   |
| 10月 | 16日   | (Web開催)科学技術振興に関する「北見<br>・網走」地域懇談会  |   |   | 3月  | 3日     | (Web開催)第2回オホーツク地域農業気象<br>連絡協議会(欠席)     |   |   |
|     | 15日   | 第15回訓子府まちづくり推進会議                   |   |   |     | 3-7日   | (Web開催)北海道農業試験会議設計会議                   |   |   |
|     | 24日   | (Web開催)第6回安全管理者会議                  |   |   |     | 14日    | オホーツク地域農業技術支援会議・地域<br>関係者会議            |   |   |
|     | 29日   | (Web開催)第6回運営推進会議                   |   |   |     |        |                                        |   |   |
|     | 30日   | 第2回訓子府町温暖化協議会                      |   |   |     |        |                                        |   |   |
|     | 31日   | 作況報告会                              |   |   |     |        |                                        |   |   |
|     | 31日   | オホーツク総合振興局海外悪性伝染病警<br>戒本部第2回幹事会    |   |   |     |        |                                        |   |   |

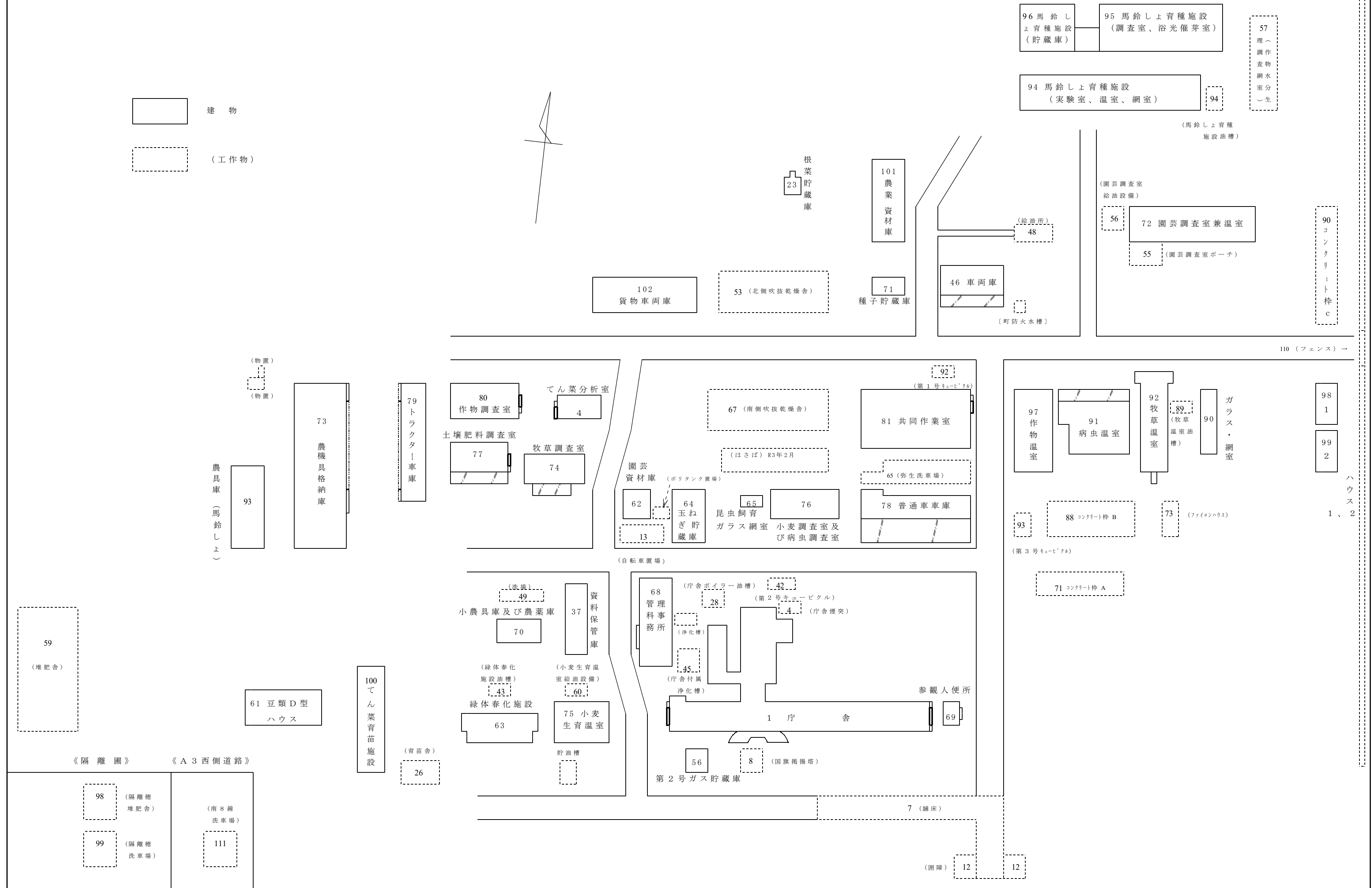
| 月 日 | 行 事 名                       | 月 日 | 行 事 名 |
|-----|-----------------------------|-----|-------|
| 14日 | (Web開催)第8回安全管理者会議           |     |       |
| 18日 | (Web併用)北見農試現地委託試験設計検討会      |     |       |
| 19日 | (Web開催)北海道農業試験研究推進会議<br>本会議 |     |       |
| 21日 | 第6回農研本部場長会議                 |     |       |
| 24日 | 第1回農研本部場長会議                 |     |       |
| 31日 | 辞令交付式(退職・異動)                |     |       |

## 5 自己点検への対応

| 事 項                 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1  | R2      | R3      | R4      | R5  | R6  |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|---------|---------|-----|-----|
| 研究成果発表会の開催件数        | 2   | 1   | 1   | 3   | 2   | 1(web)  | 1(web)  | 1(web)  | 1   | 1   |
| 研究成果発表会への延べ参加人数     | 496 | 169 | 136 | 673 | 325 | 938(視聴) | 492(視聴) | 514(視聴) | 124 | 122 |
| 研究会等の開催件数           | 0   | 1   | 1   | 1   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 研究会等への延べ参加人数        | 0   | 39  | 97  | 60  | 0   | —       | —       | —       | —   | —   |
| 発表会・展示会等への出展件数      | 2   | 1   | 2   | 3   | 0   | 1       | 2       | 2       | 2   | 0   |
| 研究報告書の発行状況          | 4   | 2   | 4   | —   | 3   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 技術資料の発行状況           | 1   | 4   | 1   | —   | 2   | 2       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 学会やシンポジウム等での発表件数    | 36  | 33  | 20  | 25  | 24  | 10      | 17      | 11      | 20  | 18  |
| 学術誌や専門誌への投稿論文数      | 10  | 16  | 11  | 9   | 9   | 5       | 7       | 5       | 5   | 1   |
| 普及組織との連絡会議等開催件数     | 9   | 9   | 10  | 5   | 3   | 4       | 5       | 2       | 6   | 3   |
| 技術相談件数              | 66  | 85  | 89  | 85  | 76  | 84      | 94      | 99      | 76  | 123 |
| 技術指導件数              | 78  | 56  | 55  | 53  | 59  | 55      | 33      | 33      | 38  | 25  |
| 研究成果の公表・活用状況(雑誌)    | 15  | 31  | 30  | 17  | 20  | 22      | 15      | 15      | 15  | 9   |
| 研究成果の公表・活用状況(書籍)    | 1   | 2   | 2   | 1   | 3   | 9       | 5       | 4       | 0   | 0   |
| 研究成果の公表・活用状況(新聞)    | 2   | 7   | 3   | 5   | 3   | 8       | 2       | 4       | 2   | 2   |
| 技術審査件数              | 1   | 1   | 0   | 1   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 依頼試験実施件数            | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 試験機器等の設備の提供件数       | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0       | 0       | 1   | 0   |
| 利用者意見把握調査の回答数       | 94  | 180 | 115 | 145 | 55  | —       | —       | —       | 75  | 49  |
| 研修会・講習会等の開催件数       | 0   | 2   | 2   | 3   | 1   | 1       | 0       | 0       | 1   | 7   |
| 研修会・講習会等の延べ参加者数     | 0   | 520 | 308 | 40  | 100 | 27      | 0       | 0       | 10  | 95  |
| 研修者の延べ受入人数          | 2   | 0   | 0   | 28  | 8   | 2       | 0       | 0       | 2   | 0   |
| 特許等の出願件数            | 0   | 1   | 1   | 3   | 2   | 2       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 公開デー等の開催件数          | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 視察者・見学者の受入件数        | 26  | 37  | 38  | 25  | 35  | 0       | 0       | 0       | 22  | 34  |
| 視察者・見学者の延べ人数        | 371 | 603 | 648 | 359 | 575 | —       | —       | —       | 259 | 388 |
| 学会等役員・委員等件数         | 14  | 17  | 9   | 12  | 9   | 12      | 6       | 6       | 8   | 8   |
| 国際協力事業等への協力件数       | 0   | 2   | 0   | 0   | 2   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 道関係部との連絡会議等の開催件数    | 37  | 28  | 20  | 6   | 10  | 0       | 0       | 0       | 0   | 8   |
| 市町村との意見交換等の開催件数     | 16  | 5   | 8   | 2   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 外部機関等との人材交流件数       | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 国内研修Ⅱ(大学等)の派遣件数     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 国内研修Ⅱ(研究機関等)の派遣件数   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 国内研修Ⅱ(企業等)の派遣件数     | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 国内研修Ⅱ(学会等)の派遣件数     | 6   | 3   | 4   | 8   | 6   | 0       | 0       | 10      | 4   | 6   |
| 国内研修Ⅱ(シンポジウム等)の派遣件数 | 0   | 0   | 1   | 0   | 1   | 0       | 0       | 0       | 0   | 0   |
| 企業等への訪問件数           | 18  | 22  | 18  | 29  | 38  | 2       | 3       | 0       | 6   | 7   |
| 関係団体等との意見交換等の開催件数   | 38  | 24  | 29  | 43  | 9   | 3       | 2       | 0       | 0   | 8   |

## 6 北見農業試験場建物配置図

土地の所在 常呂郡訓子府町字弥生52番地





|                                |                                |      |      |      |            |
|--------------------------------|--------------------------------|------|------|------|------------|
| A 5                            | A 4                            | D 3  | D 2  | D 1  | 林 地<br>(沢) |
| 混播草地<br>(管理)                   | 混播草地<br>(管理)                   | 秋播小麦 | 秋播小麦 | てん菜  |            |
| トールフェスク+<br>白クローハ <sup>※</sup> | トールフェスク+<br>白クローハ <sup>※</sup> | (麦類) | (麦類) | (畑作) | S-4        |
| (H20 造成)                       | (H20 造成)                       |      |      |      | 採草地        |

第8圃場  
(旧水稻圃)

公宅用地 (若葉 101)

8-2 草地

用水路

8-1 (一部ダイコン) 草地

8-3 草地

8-4 草地

公宅用地 (若葉 99)

至置戸

旧ふるさと銀河線

至北見

北海道立総合研究機構 北見農業試験場年報 令和6年度

---

令和7年7月発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構  
農業研究本部 北見農業試験場

〒099-1496 北海道常呂郡訓子府町字弥生52番地

電話(代表) (0157) 47-2146

ファックス (0157) 47-2774

HPアドレス <http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/kitami/index.html>

---